



公立大学法人 福井県立大学

Fukui Prefectural University

ファカルティ・ディベロップメント 報 告 書 2020

2021 年 3 月

F D 部会

は じ め に

今年度は新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、この「新しい日常」への対応を模索する、いわば「遠隔授業元年」ともいうべき一年でした。FD 活動もこれに伴って、その対応に明け暮れることになりました。

他大学に先駆けて決定されてから、教員と事務局が一体となってその周到的準備に1ヶ月をかけ5月から始まった遠隔授業は、後期初めの2ヶ月を除き、結局ほぼ一年を通して継続されることになりました。準備に時間をかけたのは、多くの教員にとって初めての経験であると同時に、学生にとっても同様であり、両方に対して対応を求める必要があったからです。とりわけ新入生は、学生生活全般が不安定で不確定な状況に放り込まれるかたちとなり、授業の円滑な遂行のためには授業支援のみならず様々な支援が必要でした。

そうした条件を確保しつつ進められた授業は、様々な形態をとりました。詳細は各部局の報告に委ねますが、いずれも、たんに新しい試みに挑戦するというだけでなく、これまでの授業の在り方・やり方を問い直しつつ、いかに学生との双方向性を確保するかに腐心する試みだったといえます。

例年実施している授業評価も、これに伴ってアンケートの形態を変更することになりました。これについては、前期前半に海洋生物資源学部で試行的に行われたオンライン・アンケートが大いに参考となり、後期に整備されたものも、この試行のおかげといって過言ではありません。

もとより FD 活動が授業評価に集約されるものではなく、例年ここで言及されており、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」全般をいいます。ただそのいくつかは、オンラインの性格上実施困難なものもありました。遠隔授業を含めた新しい状況の下で授業をいかに改善していくか、まだ緒に就いたばかりです。引き続き様々な試行が求められることになると思われます。

最後に、本部会の運営にご尽力いただいたメンバーの皆さん、また授業評価アンケートの遂行や本報告書の整理・編集、会議の準備と後始末、そして何より、他の業務も抱えながら遠隔化への対応にご尽力いただいた教育推進課の高橋主任と村田書記に深く感謝します。

2021 年 3 月

2020 年度 FD 部会 部会長 新宮 晋

目 次

はじめに-----	i
1. 活動概要-----	1
1. 1 委員の構成-----	1
1. 2 事業の実施状況-----	1
1. 2. 1 授業評価-----	1
1. 2. 2 授業公開-----	12
1. 2. 3 F D 研修-----	12
1. 2. 4 実施要項-----	12
2. 各部局のF D活動	
2. 1 経済学部	
2. 1. 1 オンライン授業の実施-----	14
2. 1. 2 オンライン授業評価アンケート-----	14
2. 1. 3 授業公開-----	15
2. 1. 4 オンライン授業の実施状況-----	16
2. 1. 5 学科懇談会における遠隔授業に関する議論-----	17
2. 1. 6 授業改善についての課題と展望-----	19
2. 2 生物資源学部	
2. 2. 1 授業評価-----	20
2. 2. 2 授業公開の方針と実績-----	20
2. 2. 3 授業改善の取り組み-----	21
2. 2. 4 授業改善活動についての課題と展望-----	23
2. 3 海洋生物資源学部	
2. 3. 1 授業評価-----	24
2. 3. 2 遠隔講義アンケート-----	24
2. 3. 3 授業公開の方針と実績-----	25
2. 3. 4 F D 研修-----	27
2. 3. 5 授業改善についての課題と展望-----	27
2. 4 看護福祉学部	
2. 4. 1 授業評価-----	28
2. 4. 2 遠隔授業に関する実態調査-----	29
2. 4. 3 授業改善への取り組みと今後の課題と展望-----	32
2. 5 学術教養センター	
2. 5. 1 授業評価アンケートの結果-----	34
2. 5. 2 遠隔授業についてのアンケート-----	35
2. 5. 3 授業公開の方針と実績-----	38
2. 5. 4 部局内F D 研修-----	38
2. 5. 5 授業改善についての課題と展望-----	39
付 表 遠隔授業の取り組み調査-----	40

1. 活動概要

1.1 委員の構成

2020 年度の F D 部会メンバーは、以下の 6 名の教員である。

2020 年度 F D 部会委員名簿

氏 名	所 属	職	役 割
新 宮 晋	経済学部	教 授	委 員 長
アンドレイ・ベロフ	経済学部	教 授	委 員
伊 藤 崇 志	生物資源学部	准 教 授	委 員
佐 藤 晋 也	海洋生物資源学部	准 教 授	委 員
大 川 洋 子	看護福祉学部	教 授	委 員
加 藤 ま ど か	学術教養センター	准 教 授	委 員

1.2 事業の実施状況

1.2.1 授業評価

実施要項、実施概要、質問および回答用紙、全体集計結果、経年特性（前期、後期）を次頁より掲載する。

令和2年度 学生による授業評価の実施結果

（前期）実施期間 令和2年6月11日（木）～6月19日（金）【海洋生物資源学部（前半）】

（前期）実施期間 令和2年7月16日（木）～7月29日（水）【全学部・海洋生物資源学部（後半）】

調査票対象・回答状況

＜学部＞	回答数	対象数	＜大学院＞	回答数	対象数
経済学部	1,991	5,070	経済・経営学研究科	0	0
生物資源学部	446	959	生物資源学研究科	7	56
海洋生物資源学部	782	1,809	看護福祉学研究科	0	0
看護福祉学部	881	2,462			
学術教養センター	2,389	4,075			
キャリアセンター	0	0			
計	6,489	14,375	計	7	56

参加教員

＜学部＞	実施人数	実施率	＜大学院＞	実施人数	実施率
経済学部	27 人	93.1 %	経済・経営学研究科	0 人	0.0 %
生物資源学部	14 人	82.4 %	生物資源学研究科	3 人	42.9 %
海洋生物資源学部	18 人	90.0 %	看護福祉学研究科	0 人	0.0 %
看護福祉学部	21 人	72.4 %	キャリアセンター他	0 人	0.0 %
学術教養センター	25 人	96.2 %	非常勤講師	0 人	0.0 %
キャリアセンター他	4 人	100.0 %			
非常勤講師	3 人	27.3 %			
計	112 人	82.4 %	計	3 人	42.9 %

参加科目

＜学部＞	実施科目	実施率	＜大学院＞	実施科目	実施率
経済学部	45 科目	84.9 %	経済・経営学研究科	0 科目	0.0 %
生物資源学部	18 科目	78.3 %	生物資源学研究科	3 科目	42.9 %
海洋生物資源学部	36 科目	92.3 %	看護福祉学研究科	0 科目	0.0 %
看護福祉学部	32 科目	49.2 %			
学術教養センター	86 科目	91.5 %			
キャリア教育科目	0 科目	0.0 %			
計	217 科目	79.2 %	計	3 科目	42.9 %

令和2年度 学生による授業評価の実施結果

(後期) 実施期間 令和3年1月12日(火)～1月25日(月)(ただし授業の都合当により一部期間外実施)

調査票対象・回答状況

<学部>	回答数	対象数	<大学院>	回答数	対象数
経済学部	1,131	4,089	経済・経営学研究科	0	0
生物資源学部	361	930	生物資源学研究科	6	59
海洋生物資源学部	12	121	看護福祉学研究科	0	0
看護福祉学部	414	1,624			
学術教養センター	1,510	3,662			
キャリアセンター	0	0			
計	3,428	10,426	計	6	59

参加教員

<学部>	実施人数	実施率	<大学院>	実施人数	実施率
経済学部	28 人	87.5 %	経済・経営学研究科	0 人	0.0
生物資源学部	14 人	82.4 %	生物資源学研究科	1 人	14.3
海洋生物資源学部	1 人	50.0 %	看護福祉学研究科	0 人	0.0
看護福祉学部	14 人	60.9 %	キャリアセンター他	0 人	0.0
学術教養センター	24 人	92.3 %	非常勤講師	0 人	0.0
キャリアセンター他	3 人	75.0 %			
非常勤講師	0 人	0.0 %			
計	84 人	71.2 %	計	1 人	12.5

参加科目

<学部>	実施科目	実施率	<大学院>	実施科目	実施率
経済学部	83 科目	72.8 %	経済・経営学研究科	0 科目	0.0
生物資源学部	16 科目	61.5 %	生物資源学研究科	1 科目	4.8
海洋生物資源学部	2 科目	50.0 %	看護福祉学研究科	0 科目	0.0
看護福祉学部	20 科目	46.5 %			
学術教養センター	72 科目	88.9 %			
キャリア教育科目	0 科目	0.0 %			
計	193 科目	72.0 %	計	1 科目	4.8

福井県立大学 授業に関する調査

本アンケートは以下の講義用です。アンケートに回答する前に確認してください：

学部名サンプル・講義名サンプル・教員名サンプル

この調査は、県立大学が皆さんに提供している教育をより良いものにしていくために行うものです。あなたが現在受けているこの授業についての調査にご協力ください。

あなたに当てはまるもの、あなたの意見や感想にもっとも近いものの番号にチェックし、Q6については自由に記述してください。

本アンケートによる（全学、学部別等）授業評価結果は、本学ホームページ上で開示予定です。

過去の集計結果は <http://www.fpu.ac.jp/group/fd/> を御覧ください。

回答を1回に制限するためgmailアドレスでログインしてもらっていますが、誰が記入したのかは分からない設定になっています。教員にはアカウントは通知されませんので、このアンケートの回答が成績に影響することはありません。

***必須**

Q1 この講義（課題、レポート、予習復習を含む）に意欲的に取り組みましたか？ *

- ☐ 1 意欲的に取り組まなかった
- ☐ 2 あまり意欲的に取り組まなかった
- ☐ 3 ある程度意欲的に取り組んだ
- ☐ 4 意欲的に取り組んだ

Q2 この授業についての方法（先生の講義の方法、話し方、資料の提示方法、学習支援システム・遠隔システムの活用など）はどうでしたか？ *

- ☐ 1 不適切である
- ☐ 2 やや不適切である
- ☐ 3 まあまあ適切である
- ☐ 4 非常に適切である

Q3 この授業の内容はどの程度理解できましたか？ *

- ☐ 1 理解できなかった
- ☐ 2 あまり理解できなかった
- ☐ 3 ある程度理解できた
- ☐ 4 理解できた

Q4 この授業の分野への関心は高まりましたか？ *

- ☐ 1 高まらなかった
- ☐ 2 あまり高まらなかった
- ☐ 3 少し高まった
- ☐ 4 高まった

Q5 この授業を総合的に評価してください *

- ☐ 1 良くない
- ☐ 2 あまり良くない
- ☐ 3 まずまず良い
- ☐ 4 良い

Q6 この授業について、その方法、教材、授業内容など、良かった点・悪かった点・気づいた点を自由にご書いてください（この欄の記述に対する担当教員のコメントを、後日ウェブ上に掲載します）。

回答を入力

Q7 教員設定の質問・選択式（該当授業のみ）

- ☐ 1
- ☐ 2
- ☐ 3
- ☐ 4

Q8 教員設定の質問・記述式（該当授業のみ）

回答を入力

送信

全体集計結果の見方

次頁より授業評価の集計結果を学部（前期・後期）、大学院（前期・後期）の順に掲載する。
以下に、集計結果の見方を記す。

集計数	前期：回答された全てのアンケートから当該科目が不明のデータを除いたもの 後期：回答された全てのアンケート
Q1 から Q5	アンケートの Q1 から Q5 に対応
数値上段	平均値（質問は、4 件法）
数値下段	母標準偏差
集計方法	上段 回答選択肢「1、2、3、4」をそれぞれ「1 点、2 点、3 点、4 点」と得点化。この得点化規則に則り、設問別、集計グループ別に合計得点を求めて、有効回答数で割った平均値を示す。 下段 設問ごとに母標準偏差を求め、回答者の選択肢に対する偏り度合いを数値で下段に示す。但し、設問に対して無回答の場合は得点化せず、かつ有効回答数としては計上していない。 「―」の欄は有効回答が無かったことを示す。
〔集計グループ〕	
全体	全ての集計対象者
部局別	当該学部には所属する教員が提供する科目に対する評価結果を集計
履修登録者数別	履修登録者数が「100 人以上」「100 人未満」別に集計

令和2年度 前期 学生による授業評価全体集計結果

【学 部】

集計グループ	(集計数)	Q1意欲的受講	Q2授業方法	Q3内容理解	Q4関心	Q5総合評価
全体	(6489)	3.45 0.66	3.43 0.63	3.23 0.64	3.29 0.73	3.50 0.62
部局別	(6489)					
経済学部	(1991)	3.42 0.68	3.36 0.65	3.15 0.66	3.18 0.75	3.43 0.64
生物資源学部	(446)	3.44 0.62	3.37 0.63	3.17 0.64	3.30 0.72	3.49 0.62
海洋生物資源学部	(782)	3.41 0.68	3.36 0.66	3.22 0.65	3.29 0.77	3.43 0.68
看護福祉学部	(881)	3.62 0.56	3.39 0.66	3.20 0.58	3.41 0.66	3.52 0.63
学術教養センター	(2389)	3.42 0.67	3.53 0.58	3.31 0.63	3.34 0.70	3.59 0.57
履修登録者数別	(6489)					
100人以上	(2439)	3.38 0.68	3.38 0.64	3.15 0.65	3.21 0.74	3.44 0.64
100人未満	(4050)	3.49 0.64	3.46 0.63	3.27 0.63	3.34 0.71	3.54 0.61

【大学院】

集計グループ	(集計数)	Q1意欲的受講	Q2授業方法	Q3内容理解	Q4関心	Q5総合評価
全体	(7)	3.14 0.35	3.43 0.49	3.00 0.00	3.43 0.49	3.57 0.49
部局別	(7)					
経済・経営学研究科	(0)	— —	— —	— —	— —	— —
生物資源学研究科	(7)	3.14 0.35	3.43 0.49	3.00 0.00	3.43 0.49	3.57 0.49
看護福祉学研究科	(0)	— —	— —	— —	— —	— —

令和2年度 後期 学生による授業評価全体集計結果

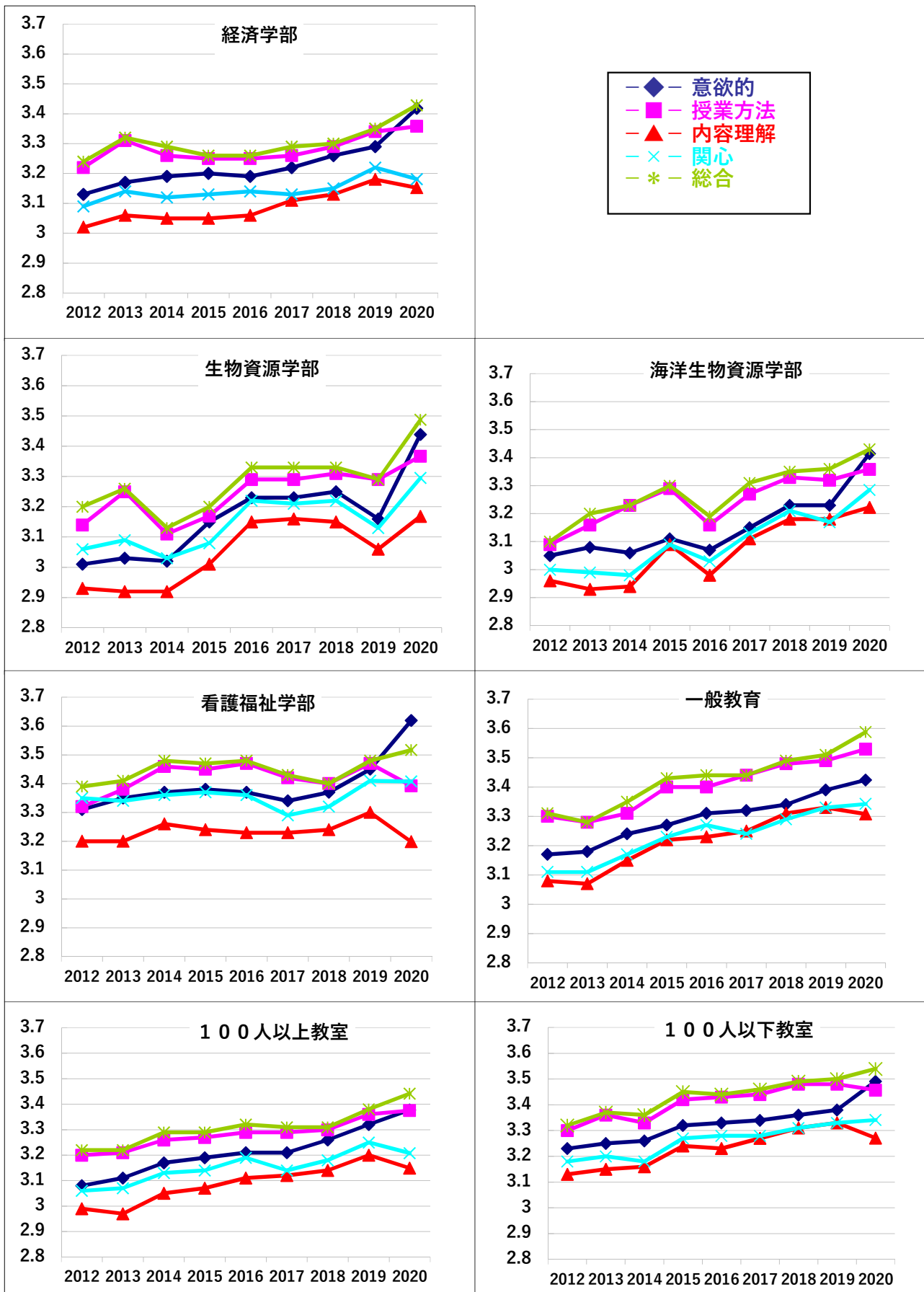
【学 部】

集計グループ	(集計数)	Q1意欲的受講	Q2授業方法	Q3内容理解	Q4関心	Q5総合評価
全体	(3428)	3.38 0.70	3.44 0.66	3.24 0.63	3.29 0.72	3.51 0.65
部局別	(3428)					
経済学部	(1131)	3.31 0.74	3.34 0.71	3.19 0.63	3.22 0.73	3.43 0.68
生物資源学部	(361)	3.40 0.67	3.29 0.76	3.09 0.72	3.21 0.78	3.38 0.78
海洋生物資源学部	(12)	3.25 0.60	3.42 0.64	2.75 0.43	3.08 0.76	3.58 0.49
看護福祉学部	(414)	3.60 0.57	3.56 0.57	3.34 0.56	3.54 0.58	3.64 0.56
学術教養センター	(1510)	3.38 0.69	3.51 0.59	3.28 0.62	3.30 0.71	3.57 0.60
履修登録者数別	(3428)					
100人以上	(1116)	3.25 0.71	3.33 0.72	3.13 0.63	3.15 0.73	3.40 0.69
100人未満	(2312)	3.45 0.69	3.49 0.62	3.29 0.63	3.36 0.70	3.57 0.62

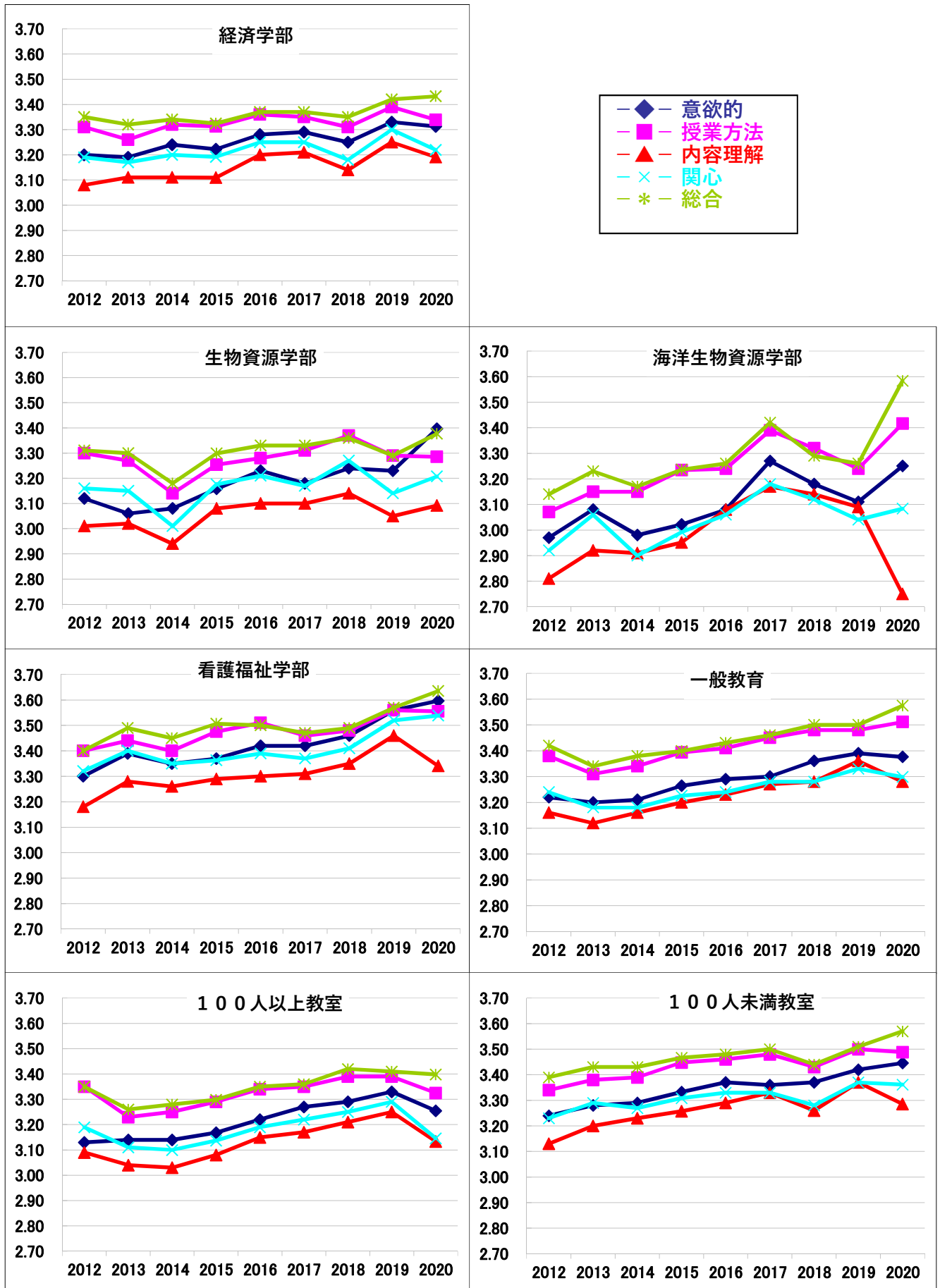
【大学院】

集計グループ	(集計数)	Q1意欲的受講	Q2授業方法	Q3内容理解	Q4関心	Q5総合評価
全体	(6)	3.33 1.11	3.00 0.58	3.50 0.50	2.83 0.90	3.00 0.58
部局別	(6)					
経済・経営学研究科	(0)	— —	— —	— —	— —	— —
生物資源学研究科	(6)	3.33 1.11	3.00 0.58	3.50 0.50	2.83 0.90	3.00 0.58
看護福祉学研究科	(0)	— —	— —	— —	— —	— —

重要項目の経年特性（前期）



重要項目の経年特性（後期）



1.2.2 授業公開

詳細は2章「各部局のFD活動」にて報告する。

1.2.3 FD研修

全体研修は令和2年度は実施せず。各部局で行った研修は、2章「各部局のFD活動」にて報告する。

1.2.4 実施要項

福井県立大学学生による授業評価実施要項

- 1 目 的
学生による授業評価を通じ、教員が授業の内容および方法の改善を図ることにより、教育力の向上に取り組む。
- 2 対象教員
専任教員および非常勤講師
- 3 対象学生
学部生、大学院生、科目等履修生・聴講生
- 4 対象授業
(1) から (3) を除く授業科目
ただし、(1) から (3) については、学部・学科および教員が希望する場合は実施することができる。
(1) オムニバス授業
(2) 実験、実習（指導）、論文（指導）、研究、卒業研究、演習教科
(3) 実施期間終了後の集中講義
- 5 期 間
前期科目： 前期 期末試験期間前の2週間
後期科目、通年科目： 後期 期末試験期間前の2週間
集中講義は、原則、講義の最終日に実施する。
- 6 方 法
アンケート用紙にて実施する。
ただし、事前の申請により、LMSにて実施することができる。
- 7 項 目
評価は、下記項目について実施する。
(1) から (5) については、4段階評価とし、(6) については、自由記述とする。
ただし、下記項目に加えて、教員が質問を設定することができる。
 - (1) 受講の意欲
 - (2) 授業方法
 - (3) 内容の理解
 - (4) 関心
 - (5) 総合評価
 - (6) 感想等

8 評価結果の取扱い

評価結果の集計終了後、授業科目ごとの評価結果とあわせて、アンケート用紙を教員に送付する。教員がアンケート用紙を事務局に返却後、評価結果およびLMS実施データとともに部局長の閲覧に供する。部局長は必要に応じて授業改善のための話し合いの場を設ける。

評価結果は本要項の目的以外に使用してはならない。

9 評価結果の公開

- (1) 評価結果の公開については、専任教員のみ、授業科目ごとの評価結果（授業科目名、教員名、質問毎の平均点）を学内LAN内のウェブページにて公開する。

ただし、7（6）感想等の記載内容については、公開しない。

評価結果の公開に当たっては、全体の集計結果についてもあわせて公開する。

- (2) 授業評価に対する専任教員のコメントを、学内LAN内のウェブページにて公開する。

【 附 則 】

平成26年 4月 1日 施行

平成27年 5月26日 改正（期間）

平成29年 6月 7日 改正（評価結果の取扱い）

2. 各部局のFD活動

2.1 経済学部（アンドレイ ベロフ、飛田 正之）

コロナ禍の影響により経済学部の授業は原則としてオンラインで行われ、FD活動も大きく変化した。本年度の公式のFD活動は、①オンライン授業の実施（前期、後期）、②オンラインでの「授業評価」（前期、後期）、③「オンデマンド授業資料の公開」（後期2件）、④オンライン授業に関する学科ごとの公聴会の4つからなる。これ以外にも、オンライン授業・オンライン授業評価に関する非公式の懇談会を行うなど、FD活動に関わる自主的な議論は日常業務として活発に行われた。これより以下は、公式のものについて報告するものである。非公式のものについては、今後の課題として言及する。

2.1.1 オンライン授業の実施

コロナ禍の影響を受けて、前期・後期の授業はオンラインで実施した。2020年2月17日の全学ミーティングにおける遠隔授業検討会において、「オンラインツール紹介」や、その使い方が紹介された。前期には学生の通信テストの実施、オンライン授業プラットフォームの選択（Zoom、LMS、Google Classroom など）、遠隔授業、遠隔用オンデマンド教材の作成・提供、中間テスト・期末テスト・レポートの実施、オンライン授業評価などが行われた。これら前期の活動を踏まえ、9月には、学科ごとの公聴会で活発な意見交換ができた。

経済学部では大半の授業がZoomで、プリント・教材などの資料提供はGoogle Classroom、Google Driveで行われた。一方、一部の授業ではLMS、Line、MSTeams、eメールなども活用された。中間テストや感想などはGoogle Classroom及びLMSで、また期末テストはおもにレポート形式で、Google Classroom、LMS及びZoom等のオンライン形式で行われた。一部の授業では、Google Formsを使うなどしてLive試験が行われた。

2.1.2 オンライン授業評価アンケート

<前期授業評価アンケート>（学部生）

問	1.意欲的受講	2.授業方法	3.内容理解	4.関心	5.総合評価
経済学部 平均	3.42 (0.68)	3.36 (0.65)	3.15 (0.66)	3.18 (0.75)	3.43 (0.64)

<後期授業評価アンケート>（学部生）

問	1.意欲的受講	2.授業方法	3.内容理解	4.関心	5.総合評価
経済学部 平均	3.31 (0.74)	3.34 (0.71)	3.19 (0.63)	3.22 (0.73)	3.43 (0.63)

＜授業評価アンケート＞（大学院生）については実施原則により実施されなかった。

授業評価のアンケートは、既述のとおりオンラインで実施されたが、回収率は前年と比べ低くなった。その一方、学生のコメントは見やすくなり、実施期間や教員による質問の設定もやりやすくなった。このように、オンラインによる授業評価アンケートにはメリットも多く見られた。

経済学部の評価状況を例年との比較で見ると、「関心」や「理解」については前・後期ともやや下がっているが、全般的には大きな変化はなく、遠隔初年としてはまずまずの評価と思われる。

2.1.3 授業公開

経済学部の授業公開ポリシーは、従前通り、積極的な授業参加を通して公開者・参加者の授業改善を目的としているが、今年度はコロナ禍の影響により、遠隔授業の公開は実施できなかった。その代わりに今年度は、後期に2回、遠隔用オンデマンド教材の公開を行った。以下、その概要である。

〔後期〕遠隔用オンデマンド教材の公開2件

担当：いずれも田中求之准教授

URL：<http://tanaka.ecn.fpu.ac.jp/fd2020.html>

教材公開の概要：対面授業で用いたスライドに、当日の授業を録音した音声を合わせたもの、音声の進行にスライド画像の切り替えを連動させるものになり、パソコン、スマートフォンのどちらでも視聴できる。

〔1件目〕科目名：情報システム

テーマ：IT 関連の技術・業界・政府の動向（11月25日）

講義概要：IT 関連の技術・業界・政府の動向などを解説し、ニュース解説に技術及び日経新聞の IT 関連記事が分かるようになることを目標としている。

オンデマンド教材の概要：スライドが17枚、音声が合計で65分、データサイズは31M バイトである。

〔2件目〕科目名：経営組織論

テーマ：非公式組織をめぐって（11月27日）

講義概要：非公式組織の定義、活動、発見、公式組織の関係、役割分担と個人についての授業である。

オンデマンド教材の概要：スライドが18枚、音声が合計で59分、データサイズは28M バイトである。

〔閲覧者からの意見〕

1) 工夫されている点、参考になる点

- ・ 3 種類の教材（視聴方法）へのリンクがあり、使いやすい
 - ・ パソコン、スマートフォンのどちらでも視聴できる
 - ・ スライドが見やすい
 - ・ 音声の進行にスライド画像の切り替えを連動させるので、使いやすい
- 2) 改善したらよい点
- ・ 講義内容を一枚にまとめるプリントの用意
- 3) その他意見、感想
- ・ 様々な課題について取り上げた興味深い授業であった

2.1.4 オンライン授業の実施状況

～2020 年 6 月 12 日にとりまとめた「遠隔授業の形態調査」の集計結果から

(1) 調査の趣旨

経済学部における遠隔授業の実態把握、授業要件の充足ならびに学生の負担度合の確認を目的として、以下の項目に関する調査を行いました。

- ・ 講義形態について（質問 1・2）
- ・ 講義時間数の確保について（質問 3-5）
- ・ 課題や出欠確認、評価方法について（質問 6-8）
- ・ 質疑応答や学生同士の意見交換の機会の確保について（質問 9・10）

(2) 集計方法

この調査は Google フォームを利用して 5 月 19 日から行ったもので、経済学部教員 31 名に回答していただきました。データの総数は 102 科目（そのうち、講義科目が 36、演習科目が 66）です。

質問の作成、回答の集計にあたっては、遠隔授業の分類および授業の要件 1 を参考にしました。各教員の授業に対する細やかな配慮や努力・工夫などを反映する回答も多くありましたが、授業の要件という観点から分類・集計しました。

結果表にある数値は分類項目に該当する回答数をデータの総数 2 で割った相対度数 3 です（単位％）。

(3) 結果の概要

1. 講義形態について（質問 2）

- ・ 講義・演習科目ともに「双方向オンライン型」が最も多い（全科目の 75.4％）。
- ・ 講義科目では 50.0％が「双方向オンライン型」、27.8％が「オンデマンド型」、22.2％が「資料配信型」。
- ・ 演習科目では 89.3％が「双方向オンライン型」。

2. 講義時間数の確保について（質問 3-5）

- ・ 回答のあった 102 科目ではすべて「15 回分の授業を確保できる予定」。
- ・ 全科目の 90.3％が「学年暦通り」に講義を行う予定。

・ 祝日・土曜日に割り当てられた場合、全科目の 43.1%が「資料配信型」で対応。講義科目では「資料配信型」に次いで「オンデマンド型」による対応が 33.4%、演習科目では「資料配信型」に次いで「双方向オンライン型」による対応が 31.8%。

3. 課題や出欠確認、評価方法について（質問 6-8）

・ 全科目の 43.3%、講義科目の 64.0%、演習科目の 31.8%が「課題の採点・コメント」で指導。

・ 出欠は講義科目の 83.4%が「課題提出」で、演習科目の 65.1%は「画面・チャット」のみで確認。

・ 学生の評価方法は、講義科目の 58.4%が「毎回のテスト・課題」で評価、演習科目では 31.8%が「学生の取り組み」で、34.8%が「レポートと学生の取り組み」で評価。

・ 講義科目の 41.7%は「期末・中間テスト」で評価。

4. 質疑応答や学生同士の意見交換の機会の確保について（質問 9・10）

・ 学生との質疑応答の方法は「メール」と「Google Classroom」が多く、その後「Line」が続く（全科目でそれぞれ 67.7%、66.8%、38.3%）。

・ 学生同士の意見交換の場として、講義科目の 77.8%が「Google Classroom」を、演習科目の 78.7%が「Google Classroom」または「Line」を利用。

2.1.5 学科懇談会における遠隔授業に関する議論

経済学科

日時：2020 年 9 月 16 日（水）13:40～14:40

■講義科目について

リアルタイム配信（5 名）、オンデマンド型（4 名）、資料配信型（1 名）

講義科目に関する個別コメント：

・ 授業開始の直前に GC にアップ、フィードバックタイムはリアルタイムで録画し、それらをその日のうちに GC にアップした

・ 資料は毎回 A3 用紙 1 枚分を準備し、それを用いて講義。PPT は紙芝居っぽく見えるので避けた。

・ これまでの授業の資料がそのまま使えないので、学生にどれくらい伝わっているのか、いつもより不安で、準備が大変だった

・ 最初の講義時間に、すべてのスケジュール（レポートや評価のタイミング）を学生に示したので良かった

・ 学生に提供するファイルサイズを小さくするよう、専用のソフトも活用した。できるだけ例年と同じようなスタイルにした。

・ PPT と通常の板書を組み合わせたことで、学生から反応が伝わり良かった。ZOOM のチャット機能を使うことで、いつもだと前席に座る一部の学生からしか反応がないが、今回はすべての学生から反応を受けることができた。

・話す時間は40分くらいを目指したが、時間を短くすると資料を読ませる量が多くなるため、多少長く話した方が、かえって学生のためになるのではないかと感じた。質問もメールで来るなど、教育者として例年よりも手応えがあった。

・PPTと動画を作成し、GCに載せた。40分から50分程度のもの。レジュメはA4用紙1枚のものを作成。通常の5倍ほど、準備に時間がかかった。

■演習科目に関する個別コメント：

・いろいろな資料を見せながら授業が出来たので良かった。最後に感想を求め、理解が深まったと思う。

・いつもと全く違った。画面を共有して、そこに学生にコードを書き込ませた。普段なら見回って間違っている学生を指導してきたが、今回のやり方では学生のつまずきのポイントが分かりにくかった。

・演習Ⅰは、統計の演習をした。こちらは上手くいった。演習Ⅱでは、卒論指導なので基本的にLINEを用いて個別対応をするが、学生の近況なども聞けて良かった。自主性に任せているので、反応が鈍い学生もいた。

日時：2021年1月20日（水）13:40～14:40

主なコメント：

- ・オンライン授業で通学することが困難な学生には、かえって良かった
- ・対面で質問が出ないことでも、Zoomではチャットでの質問が見られた
- ・MITのオープンコースを利用したがよく出来ていた

経営学科

- ・動画配信型オンデマンド授業は手間がかかった
- ・遠隔授業での課題やテストについて不公平という学生の意見があった
- ・オンライン型授業の方が向いている講義科目だった
- ・Zoom動画作成し、圧縮して90M B程度/1講義(1本30分以内の動画を複数)の動画をClassroomに載せた。
- ・Zoomのブレイクアウトルームには問題があるので、演習では学生個々人に独自にZoomアカウントのIDを作成してもらい、グループワークを行った。
- ・Zoomで共同ホストの設定をすれば、ブレイクアウトルームのルーム間を学生も移動することができる。
- ・リアルタイムの授業、反応がほとんどない。
- ・PC上での試験について、予測変換で解答できてしまう場合がある。学生同士で電話やLINEで相談しながら解答しているようだ。
- ・Zoomのリアルタイム講義、間に休憩時間を入れるが、長いという学生もいれば、短いという学生もいる。

日時：2021 年 1 月 20 日（水）13:40～14:40

おもなコメント：

- ・対面と遠隔の併存で公平な成績評価ができるか課題
- ・プラットフォームが複数ある（GC、LMS）のは学生にとっては不便ではないか
- ・対面、オンデマンドなど授業形態の選択肢が生まれた。今後もうまく活用できるといい

2.1.6 授業改善についての課題と展望

今回この項は、遠隔授業に対する評価という面からまとめておきたい。

遠隔授業 1 年目の今年は、手探りしつつどうにか乗り切ったという印象である。課題は数多くある。例えば、懇談会でも議論されたが、各期末の評価をどのように行うかは大きな課題で、従来型の試験を行っている授業ではオンラインでの評価の難しさが感じられたようである。また、フィールドワーク等で現場に赴くことが困難になり、授業に大きな制約となった場合もあり、こちらもなかなか深刻である。

対面型での直の双方向性はオンラインでは望むべくもないが、その反面、Zoom のチャット機能や LINE 等を使った質問はむしろ例年よりも活発で、対面の持つ直接性を回避したい学生には好都合だったという面もある。

この一年で対面が唯一実現した後期 10 月半ば～12 月下旬前の期間には、学生達の多くが対面を渴望していたことをうかがわせる局面も見られた。対面とはいえいろいろな制約があった中で、グループワークによる研究発表をさせた演習などでは、ゼミ生達が対面状況を深く味わっている様子が見られたという報告がある。新型コロナウイルス感染症が終息するまでにはまだ時間がかかることを考えると、適切なタイミングで対面授業をどう行うかは、重要は判断となる。

遠隔授業のやり方については、IT の習熟が今後教員・学生双方でどのように進んでいくかによって変わっていくものと思われる。IT を使って初めてできることを多くの教員が実感したのも事実で、それらはコロナが終息しても利用できるものもあり、方法が多様化することでより効果的に授業を行う可能性も開かれたといえる。それらについての評価は俄には下しがたく、今後さらに経験を積み情報を共有し対面授業といかにうまく組み合わせていくかが問われるものと思われる。

しばらくは試行錯誤を続けていく必要がありそうである。

2.2 生物資源学部

2.2.1 授業評価

学部の授業評価結果は、「意欲的受講」前期 3.44 + 後期 3.40（前年 3.26 + 3.29）、「授業方法」前期 3.37 + 後期 3.29（前年 3.37 + 3.39）、「内容理解」前期 3.17 + 後期 3.09（前年 3.15 + 3.17）、「関心」前期 3.30 + 後期 3.21（前年 3.21 + 3.22）、「総合評価」前期 3.49 + 後期 3.38（前年 3.37 + 3.41）であった。直近の6年間とくらべ R2 年度は意欲的受講、関心が高い傾向が見られた。本年度は前期すべて、後期の半分程度はオンラインでの講義であったが、これらの項目についてはオンラインの方がじっくりと受講できる等のメリットが影響したのかもしれない。

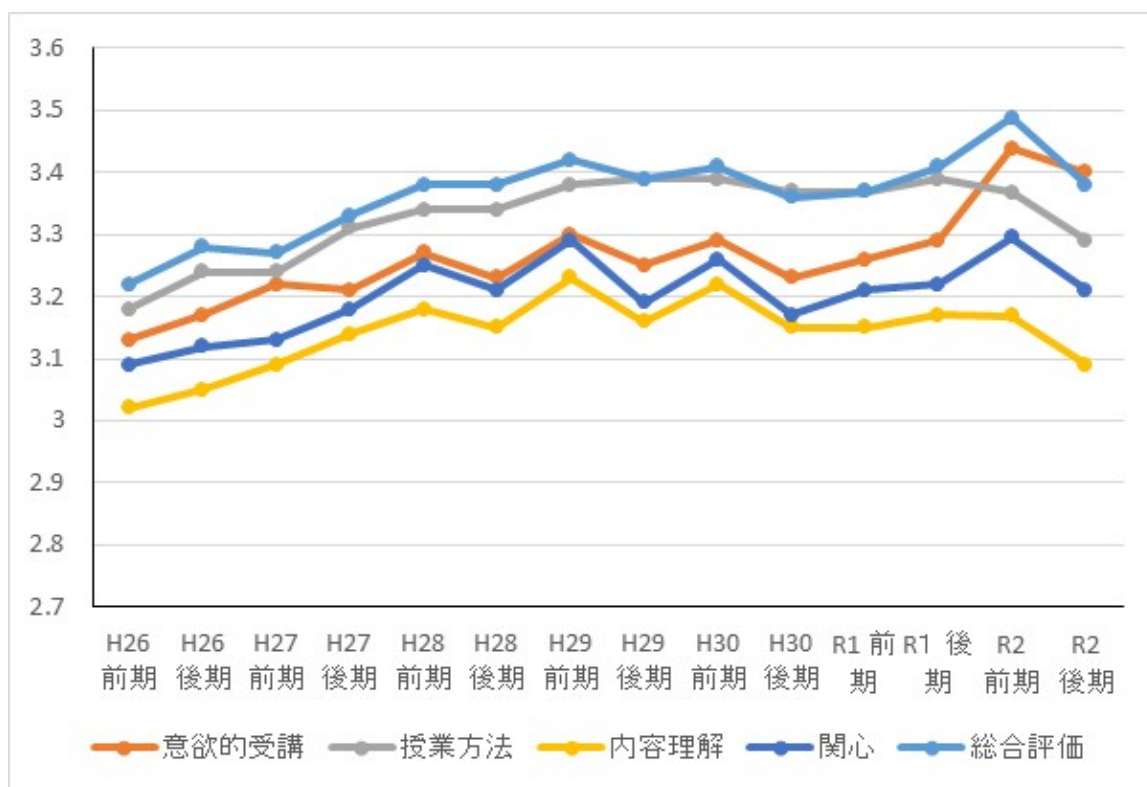


図 生物資源学部授業評価の経年推移

大学院の授業評価結果は、「意欲的受講」前期 3.14 + 後期 3.33（前年 3.28 + 3.46）、「授業方法」前期 3.43 + 後期 3.00（前年 3.51 + 3.54）、「内容理解」前期 3.00 + 後期 3.50（前年 3.05 + 3.25）、「関心」前期 3.43 + 後期 2.83（前年 3.26 + 3.61）、「総合評価」前期 3.57 + 後期 3.00（前年 3.46 + 3.64）であった。関心や総合評価で R2 年度後期においては低値であり、授業のオンライン化等の影響が考えられる。

2.2.2 授業公開の方針と実績

(1) 方針

生物資源学部では、各教員が、必要に応じて自分が担当していない講義を聴講し、授業内容を

直接確認できるよう、全講義を対象に、希望者が事前に担当教員に連絡することでいつでも参観できる「随時公開制」を採っている。

(2) 実績

今年度、担当外の講義を参観した教員はいなかった。

2.2.3 授業改善の取り組み

1) 教員へのアンケート

生物資源学部では、各教員が、学生の理解を助けるために行っている、授業（学生実験を含む）上の工夫を調査により収集し、全教員でその情報を共有する取り組みを行っている。

本年度は、「遠隔授業への取り組み」を調査した。

・遠隔授業における「講義」での工夫点、反省点

ホームページを作成し、講義資料やビデオは随時アップロード。授業時は毎回接続を確認。授業中の連絡には slack を使用。試験は主に google form を使用、出席の代わり簡単な課題演習を毎回実施。など。
遠隔授業期間はレポートが多すぎると聞いていたので、授業時間内にできるような簡単なミニツツペーパーをやらせるにとどめました。 学生が講義をきちんと聞いているかどうか把握できずに進めたのが反省です。途中で、一息おいて確認クイズみたいなことをするのもよかったかなと思います。
対面授業においても Zoom を使用し、オンラインとの一貫性をもたせた。
途中で休憩をはさむ
オンデマンド配信の動画は 30 分以内で作成し、課題を考えながら動画を進行させる方式にすることで、実質、90 分程度の講義内容にする工夫をした。
講義資料を PowerPoint で作成して PDF 形式で GoogleClassroom より配信。ZOOM の画面共有でリアルタイムに解説。できるだけ写真や図表を入れてわかりやすく工夫した。授業解説 60 分＋確認テスト約 20 分（採点は 5 回程度。他は受講生の復習用）の形式で毎回実施。課題は GC から提出をうけ、その日のうちに添削・返却し、質問に回答。後期のオンライン授業は、オンデマンドなし。前期は受講生の負担軽減のため、土曜・祝日のみオンデマンド形式としたが、時間を工夫してリアルタイム解説は実施した（また希望者がいたため、授業の録画配信にも応じた）。レポート課題のみを与えてオンデマンド型とする形式は採用せず、授業料に見合った教育サービスを提供するよう意識した。自主アンケートを取ったところ、「毎回楽しみにしている」、「非常にわかりやすい」、などのコメントをもらった。受講生が満足してくれたことに安心した。 反省点： 7 月以降、何度か解説中に接続が切れるトラブルを経験した。無線 LAN から有線 LAN に変更し、ノート PC の RAM を 4MB から 16MB に変更したところ、トラブルがなくなった。
演習の解説を充実させなければならないと痛感した。
課題が多すぎた
Zoom を利用して iPad で板書しながら進めたが、度々、共有に失敗してしまった。もう少し、機器の使用について習熟しておく必要があった。

学生の顔が見えないので、適宜質問時間や休憩時間を挟んで、授業を実施しました。
要点をメモするよう促す。資料・授業の視聴だけだと、勉強した気になる一方、頭に残ることは少ない。
チャットでの質問タイム、グループでのディスカッションタイムを設けた。
学生の理解度を把握するため、毎回小テストを行い質問もつけた。特にリクエストがあった内容や小テストで平均点が低かった内容については、次の回の授業で復習した。授業中には、簡単に答えられる質問を用意してチャット機能で答えてもらうように心がけた。
動画の作成に予想以上に時間を要した
初めての遠隔授業となり、学生に教科書をまず読んでもらって、理解できなかったところを中心に解説を行う授業方法を行ってみた。授業評価において、理解度と授業方法の項目で幾分評価値が低下したが、意欲・関心の項目では例年よりも高い値となった。今後は、もう少しバランスを考えて、学生の理解度の向上に努めたい。
工夫点: zoom での講義をできるだけ短く済ませた。反省点: 課題は熱心に取り組んでいるのかわかるが、zoom での講義は反応が薄いのでわかりにくい。
図表だけでなく従来板書していた部分を予め配布して授業をすすめたところ、理解しやすく、時間にも余裕ができたようである。ただ、もう少し休憩時間を取り、学生と何らかのやり取りをする時間を設けるべきだったと考えている。

・遠隔授業における「実験、実習」での工夫点、反省点

ビデオを使ったシミュレーション授業は、実験講義の予習として用いると効果が高いと思いました。
対面で実験するときと同じ実験を私自身で行って動画収録をしました。学生からの感想では、実験書を見ているだけよりも実験のイメージがわきやすく、わかりやすかった、といただき、苦労して動画撮影をしてよかったと思いました。
資料を充実させる
実習内容を前もって講義することで、対面式の実習の理解度が上がっているように思う。
学生実験のレポート課題やグラフ作成で困っている学生には個別にメールで指導・助言し、前期の遠隔授業型でのレポートは一人も欠けることなく、全員提出した。受講生が遠隔に慣れていなかったため、無理があったと思われる。また、前期の学生実験の ZOOM room が必要数確保されていなかったため、個人無料 ID で ZOOM をつかい、実験配布資料の解説を行った。対面でも、レポート作成で苦労する学生が例年いるため、遠隔授業形式での学生実験では、配布資料だけでレポートを作成させようとしても、一部の学生がついてこれなくなることを実感した。
技能や知識がしっかりと習得できるように実際の実験に近いシチュエーションを用意した。
実験動画を作製してどのような実験をする予定だったか見てもらう
学生に植物採集や土壌採取に実際にでかけてもらい、身近な観察で代用した。しかし、機器や試薬を使った分析はできないので制限が多かった。
リアルタイムでの動画配信は、手際が悪いと進行が遅れるので、ある程度は録画をした方が良かった気がします。

実験を教員がやってみせる動画を収録し、聴覚に障害を持つ学生でも楽しめるよう字幕スーパーをつけて放映した。学生には大好評だった。また、Zoom でも聴覚に障害を持つ学生が内容を理解できるよう、チャット機能を利用して、教員の解説をリアルタイムで TA にタイピングしてもらった。こちらも好評だった。さらに、Zoom ならではの試みとして、実験のプロトコル 1 つ 1 つにどのような意味があるか等について毎回グループディスカッションを行ってもらった。学生からは「普段なら見過ごしてしまう、プロトコルの 1 つ 1 つに重要な意味があることを改めて知った。」「今後もプロトコルの 1 行ずつにどのような意味があるのかを意識して実験したい。」などの意欲的なコメントが寄せられた。
データを写真で示して、長さの計測やデータ整理をしてもらい、実習に近いものにした
動画のオンデマンド配信がもう少しできればよかったと思っています。
工夫点：実験をビデオに撮りました。反省点：実際に手を動かしていないので、どのくらい身につけているのか、まったくわかりません。
梅雨時期であったが、雨天を避けるため予定されていた日程よりかなり以前に課題を GC に掲載し、余裕をもって実験に臨めるようにした。

2.2.4 授業改善活動についての課題と展望

授業評価の結果からは、総じて良好な講義が進められていることがうかがえる。「内容理解」の項目が本年度後期では特に低かったが、本年度の取り組みとして様々な遠隔授業（オンライン授業や Google Classroom を用いたオンデマンド授業）が手探りで実施され、教員・学生とも不慣れな面が多くあったことから、内容理解の低下につながった可能性が考えられる。今後も、教員個人個人で授業方法の改善を通じて学生の理解度を高めるような工夫をする必要がある。

教員間での「遠隔授業への取り組み」に関するアンケートを実施し、各教員が様々な工夫をして遠隔授業に臨んだことがわかった。また、様々な反省点を抱えており、来年度以降の遠隔授業の修正に生かしていけると考える。

2.3 海洋生物資源学部（佐藤晋也）

2.3.1 授業評価

2020年度の授業評価への参加科目数は前期が36、後期は1であった。少人数やオムニバス形式のために実施しなかった科目を除き、ほぼ全ての科目で実施された。また、それぞれの教員は自由記述に対して、具体的な改善方法を提示するなど丁寧なコメントを公表していた。今年度は本学部では前期にほぼ全ての講義科目を、後期には実験・実習科目を実施した。そのため、後期にアンケートを実施したのは1科目のみであった。平均得点は、前期・後期ともに全ての項目で全学平均を下回っていたものの、他の結果（本学部前年度の結果や今年度他学部の結果）との比較には注意が必要である。

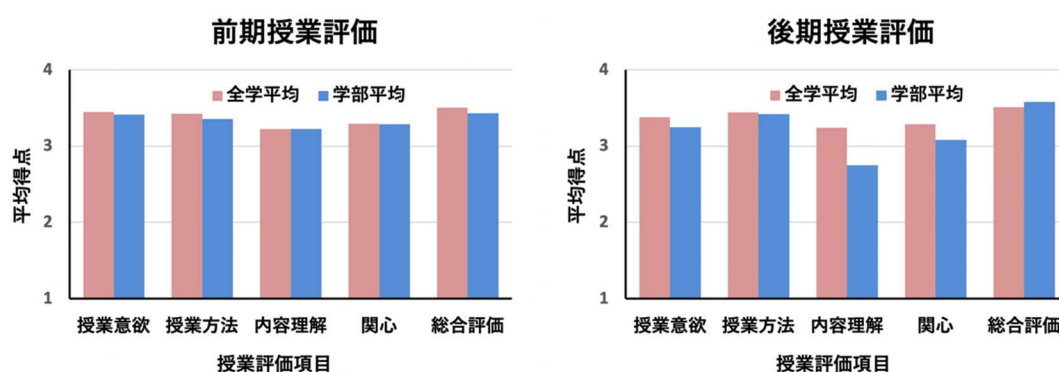


図 2020年度前期および後期の海洋生物資源学部における授業評価結果

2.3.2 遠隔講義アンケート

今年度の遠隔講義について、本学部でどのような取り組みがなされたか、学部教員を対象として調査した。ほぼ全ての実験・実習科目は対面式で実施されたため、本学部の遠隔講義アンケートは講義科目のみを対象とした。

件名：R2年度 遠隔授業の取り組み調査

調査方法：Googleformによるオンライン形式（無記名）

実施期間：2021年3月23日～30日

回答数：14件

以下、アンケート内容（赤字は集計結果）：

R2年度 遠隔授業の取り組み調査

遠隔授業においてどのような取り組みがなされたかを調査するものです。

今年度に担当した講義科目について回答してください。

本アンケートは複数回の回答が可能です。

複数科目を担当した先生は、それぞれについて回答してください。

Q1：遠隔授業のやり方を選んでください（該当するものをすべてチェック、以下の問いも全て同様）。

- ・双方向オンライン型授業（Zoomなどによる。ライブ授業） **14**
- ・動画配信オンデマンド型授業（YouTubeなどによる） **6**
- ・資料配信型授業（Webやメールなどによる） **7**
- ・その他：双方向資料配信（GCによる採点・添削・コメントなど）

Q2：学年暦で祝日・土曜日に割り当てられた授業の対応方法を教えてください。

- ・学生に配慮の上、双方向オンライン型授業を行う **7**
- ・動画配信オンデマンド型授業を行う **2**

・資料配信型授業を行う	3
・通常通り授業を行う	1
・授業を行わない	
・その他：	
Q3：設問回答、添削指導、質疑応答などによる指導について。	
・課題の採点またはコメントをして返却した	14
・学生との質疑応答をした	8
・その他：	
Q4：出欠の確認方法について教えてください。	
・Zoomなどの画面の名前やチャットで確認	12
・課題などの提出で確認	12
・その他：	
Q5：学生の評価方法を教えてください。	
・期末・中間などのテスト	6
・レポート課題（毎回ではないもの）	10
・毎回のテストや課題	10
・議論への参加など、授業中における学生の取り組み	5
・その他：	
Q6：学生と質疑応答をする方法を教えてください。	
・Google Classroom を利用	13
・Zoom のチャットを利用	14
・LMS を利用	
・E メールを利用	8
・LINE を利用	2
・その他：	
Q7：学生同士が意見を交換できる環境を用意していますか？	
・Google Classroom のストリームを用意	8
・LMS の掲示板を用意	
・LINE グループを用意	
・その他：zoom のチャット、zoom のブレイクアウトルーム、slack、zoom の講義で少しだけでも議論をする時間をとることがあった、GC のストリームは利用できるようになっていたはずだが、実際には活用されなかった。	
・	
Q8：今年度の遠隔講義で、うまくいった、またはうまくいかなかった試みについて、教えてください（自由記述式）。	
・意欲がある学生とそうで無い学生の差が顕著であり、その差を埋めるのが難しい。	
・質問の内容とずれますが、GC のメンバーを学籍番号順にする方法がわからず（今もわかりません）、点数の記録など面倒だった。チャットで出席をとったときも、順番にできればよいのだけれども、方法がわからず出欠を間違える可能性があった。	
・Youtube 等で公開されている動画を講義に導入したことは学生に好評でした。	
・動画を流すと、正常に見れない学生が多発した。動画の流し方に工夫が必要だが、どのような方法があるのか教えていただきたいです。	
・Zoom での講義中に質問をチャット欄に書くよう促しても、限られた少人数の学生しかコメントしない。	
・板書をどうするか？	
・動画配信の授業は学生の好評を得た。しかし動画製作の細かい技術に関して不足している部分があった。	

2.3.3 授業公開の方針と実績

(1) 方針

授業公開は、普段知ることのない他の教員の授業に参加し、担当教員や他の授業参加者

との意見交換を通じて、自分の授業をより良いものにするためのヒントを得る機会の提供を第一の目的とする。授業公開は大学教育における画一的で理想型の模範授業を目指すためのものではなく、教育の自由が保障されるなかで、個々の授業内容に合わせたより特色のある授業を継続的に育むことが大切である。そのため、授業の内容について批判を行うのではなく、お互いを尊重しながら、特に授業の方法について教員同士が学び合うことを趣旨として実施している。

2020年度は前期に一回の授業公開を実施した。本年度からは学部の方針として、前年度授業評価において各項目で高い評価を受けた授業を公開し意見交換することにより、授業評価のフィードバックを通じた教育の質の向上を目指している。

(2) 実績

2020年度は1回の授業公開を実施した。検討会への参加教員数が海洋教員23名中7名と低く（授業見学は10名以上）、次年度以降はより積極的な参加を呼びかけ、授業改善の有効な場となるよう努める必要がある。

今年度の授業公開は小北准教授が開講している「魚類学」を対象として6月に開催された。遠隔講義が始まり、各教員がその効果的な実施方法について模索している段階での開催となった。各種ウェブツールの活用は今後より多くの局面でその必要性や重要性が増すことと思われ、魚類学ではどのように講義を進めているのか知り、またその方法等に関する意見交換を通じて自身の講義を改善する機会と位置付けて実施した。

公開科目名：魚類学（2年次開講・選択科目） 担当：小北智之 准教授

公開日時：2020年6月26日（金）

・授業見学：10:40～12:10

参観教員は調査票に感想や質問などを記録

・検討会：13:00～14:00

参観教員の調査票をもとに意見の交換を行う

会場：Zoom 教室 48

参加人数：7名（小北・富永・近藤・片岡・田中・山田・佐藤）

参加者の意見は以下の通り。今年度はGoogleformで調査票を事前配布し意見を収集した。

1) 工夫されている点、参考になる点

- ・ムービー、ホワイトボードなどいろいろなツールを使い、メリハリがある。
- ・図がきれいで整理されている。
- ・ホワイトボードや動画を使った解説はわかりやすく、印象に残る
- ・動画を途中で止めることで、講義後に学生が自発的に動画を見る意欲を高める
- ・ケーススタディの紹介には、専門性の高い高度な内容も含まれ、好奇心をそそる。また講義の本筋の理解に役立つよう有効活用されている
- ・スライドが見やすい。
- ・ビデオは良い。
- ・ホワイトボードの使用はメリハリができてよい。一方、慣れないと記述がむづかしいと思った（PPのスライドではどこが重点かわかりにくくなってしまうが、板書で重要点が強調できるため）
- ・話す際の発音がしっかりしていて、とても聞き取りやすい。
- ・ホワイトボードやビデオを効果的に使っている。
- ・カラフルなスライドに加え、動画やホワイトボードの使用など、学生を飽きさせないような工夫が随所に施されている。
- ・話し方がゆっくり。繰り返さない。

2) 改善したらよいと思われる点

- ・スライドを行き来する点。
- ・チャットなどで質問タイムをとるとよいのではないのでしょうか。チャットだと質問しやすいようです。
- ・スライドについて、テキスト情報がやや多めで、字が小さい傾向がある。

- ・リアルタイム授業ということで、もう少し双方向性を取り入れてみては、と思いました。
- ・リアルタイム視聴ができない環境にいる学生のためには講義動画を配信するのでしょうか。その場合、小テストの締め切りが講義から1時間以内は厳しいと感じました。
- ・学生に問いかける。作業などの時間。

3) その他意見、感想

- ・意識されている授業の型、流れのようなものはあるでしょうか
- ・生物学I、II（例えば、ミトコンドリアとか二名法など）を理解しているうえで講義をすすめています、学生は理解しているのでしょうか？
- ・遠隔授業なので、板書に苦労しているようです。
- ・録画で受講する場合は、毎回のレポートは減点されるのか？
- ・話す速度がゆっくりで、しかも適度な情報量だったので理解しやすかった。
- ・様々な魚を題材とした興味深い授業でした。
- ・学生が質問する機会はあるのでしょうか（講義後の小テストに質問欄がある？）。
- ・動画の後に声が少し遠くなりました。

2.3.4 FD 研修

全学ミーティングにおける遠隔授業検討会

日時：令和3年2月17日（水）

会場：Zoom によるオンライン開催

発表者：佐藤（海洋生物資源学部 FD 委員）

本学の全教員および事務職員を対象とする全学ミーティングにて、「オンラインツール紹介」と題して遠隔講義を振り返り、特に講義に際して効果的だったツールについて、その概要や使い方が紹介された。講義は主に zoom で行い、板書ファイルやスライド資料の共有には GC を使用していた。出席やテスト等は GC にアップされた課題（Googleform により作成）を提出することとし、質問や連絡事項はストリーム欄で掲示されていた。実習では GC の代わりに slack が用いられ、グループ単位でのディスカッションや課題ごとの資料アップロードの例が紹介された。

来年度以降、遠隔授業がどの程度行われるのか見通しが立たないものの、この1年間で各教員がそれぞれ試行錯誤した試みを総括し情報共有や意見交換することは大変有用であると考えられる。今後も学生がより理解しやすく関心を持てるよう、継続的に授業内容の改善を心掛ける必要があるだろう。

2.3.5 授業改善についての課題と展望

海洋生物資源学部における今後のFD 活動方針

年2回程度、授業評価をふまえた授業公開を行う。その際は、前年度授業評価において各項目で高い評価を受けた授業を公開し意見交換することにより、授業評価のフィードバックを通じた教育の質の向上を目指す。今後は新任教員が増えることが予想されるため、年2回程度は授業公開を実施し、新任教員と在任教員の間で意見交換できる機会を提供するよう努める。授業改善検討会を通じて、教員の間で自由に意見交換できる機会を提供し、新任教員にも参考になるような体制を構築していく。

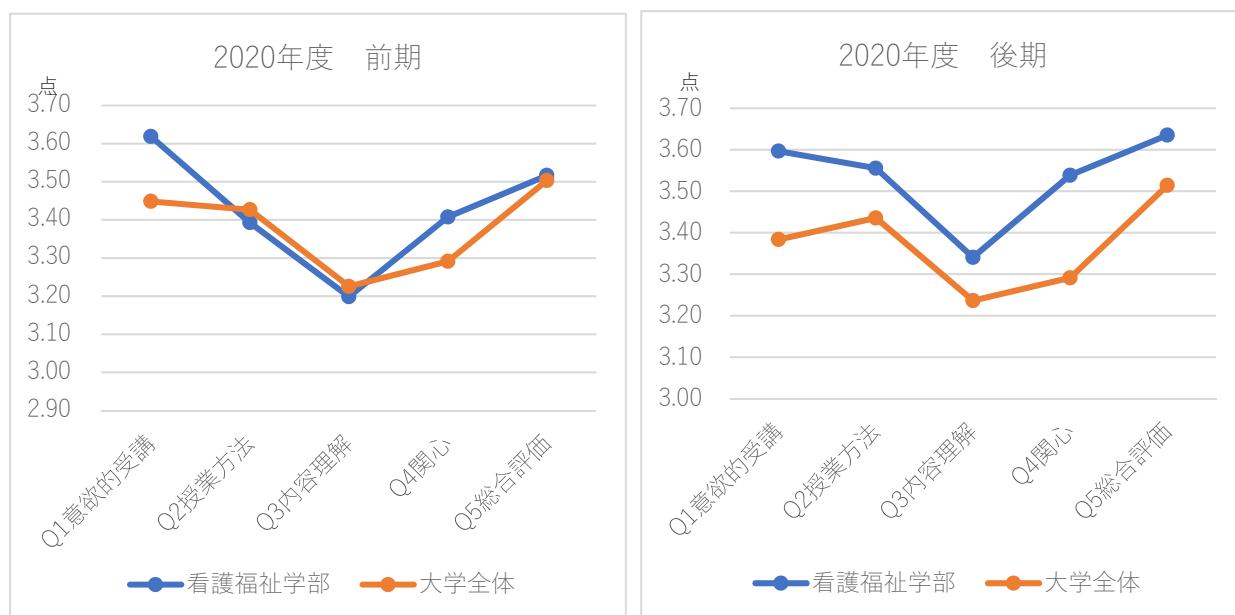
2.4 看護福祉学部

今年度の授業評価は新型コロナ感染により前期・後期ともに授業評価はオンラインによる質問紙調査を行った。その際に、大学として学科名を問う項目は削除することとなったため、学部全体としての結果を報告する。また、ほとんどの教員が遠隔授業による授業を経験したことから、遠隔授業に関する実態調査を実施した。

授業評価(2.4.1)ならびに調査結果(2.4.2)、授業改善の取り組みと今後の課題と展望(2.4.3)を報告する。

2.4.1 授業評価

前期全期間は遠隔授業を実施し、後期は1月共通テストの実施を考慮して一時期だけ、遠隔授業であった。下図は学部と大学全体を比較した授業評価である。



前期授業評価は「意欲的受講」と授業科目への「関心」は大学全体の評価よりやや高い得点であった。一方、後期は全項目において評価が高い傾向を示した。各評価項目の比較でみると「意欲的受講」が前期・後期ともに3.6点台であったが、他の項目は後期の得点が高かった。特に、「総合評価」と授業科目への「関心」は、1.5点の差があった。「内容の理解」は前期・後期ともに最も低い評価だが、前期に比べ後期のほうが1.5点高くなっていた。同様に、「授業方法」の評価も後期が1.5点以上の高い得点を示した。

前期と後期では評価する授業科目が異なるものの、後期の評価は前期に比べ評価が高い傾向を示しており、その背景には遠隔授業と対面授業の違いとも受け取れる。新型コロナ感染の終息がまだ見えない状況下においては遠隔授業を実施せざるを得ない。2020年度はすべての教員が遠隔授業への挑戦の年であり、苦労の年であった。しかし、対面式と遠隔のハイブリッドの授業形態のスキルを体得したことを利点としてとらえ、感染終息後の授業展開や見直しにつながることを期待できる。

2.4.2 遠隔授業に関する実態調査

前期遠隔授業の実施に向け、Zoom や Google Classroom などの研修会が 4 月に開催され、ほとんどの看護福祉学部教員が参加し、対面式とは異なる授業方法を経験した。そこで、年度末に学部教員に遠隔授業に関するアンケートを実施し、その結果を以下に報告する。

①調査方法

調査対象と方法

2021 年 4 月中旬に 3 月 31 日付で在籍していた看護学科・社会福祉学科専任教員に Google form によるオンライン調査を実施した。

主な調査内容

担当した授業科目の種類(講義・演習・実習)、遠隔授業で利用した授業方法、課題提示やレポート提出等に使用した授業サポート、成績評価の方法、出欠の確認方法、遠隔授業の利点・欠点、今後の課題など選択式の回答と自由記述で構成した 8 問を設定した。

②調査結果

31 名(看護学科 19 名、社会福祉学科 11 名)から回答を得た(回収率 70%)。

回答者が担当している科目は講義・演習科目が 29 名、実習科目 20 名、研究指導 4 名であった(複数回答)。最も利用した授業は双方向オンライン型のライブ授業が 93.3%を占めた。

授業で活用した授業サポート(図1)は Google Classroom が 11 名、LMS が 10 名、LMS と Google Classroom 併用が 10 名、その他が 3 名であった。

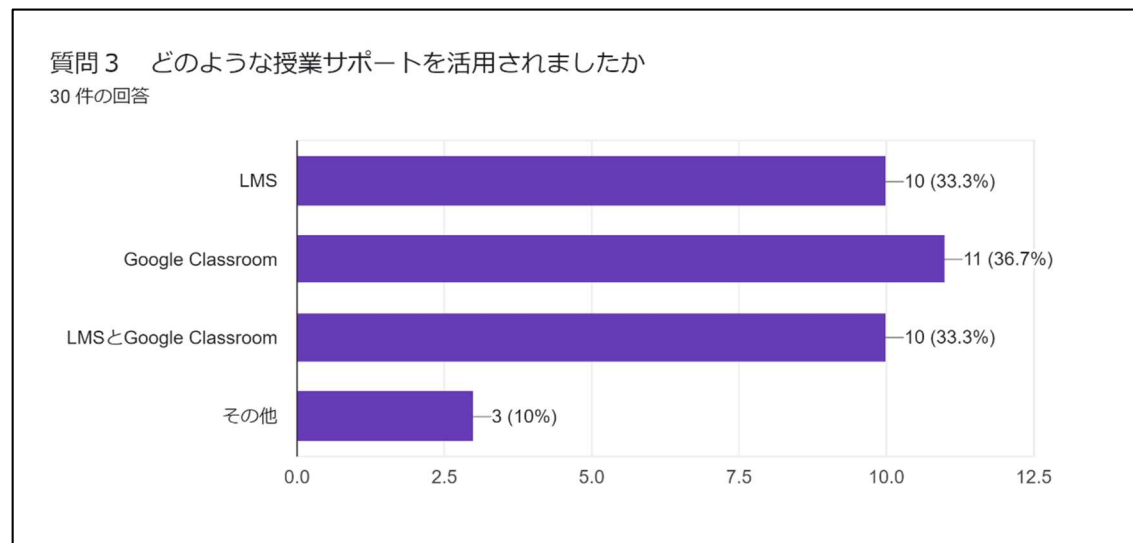


図 1

成績評価の方法(図 2)は、レポート課題による評価が最も多く、86.7%を占め、期末・中間テストの実施による評価は 50%であった。

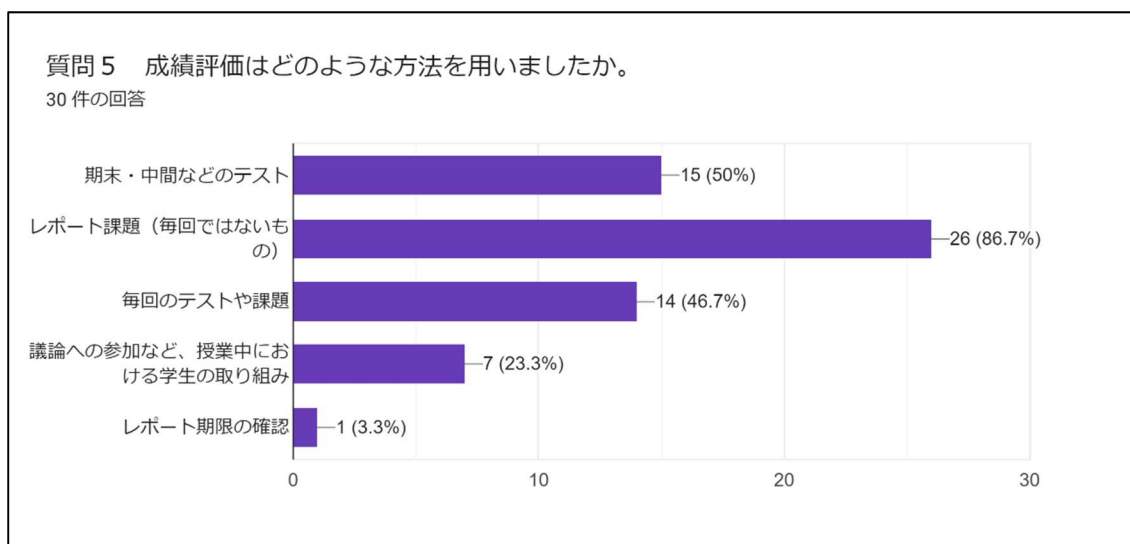


図 2

学生の授業参加の出欠の確認方法は83.3%がZoomなどによる名前のチェックやチャット機能の利用等で確認していた。課題提出による確認は66.7%であった(図3)

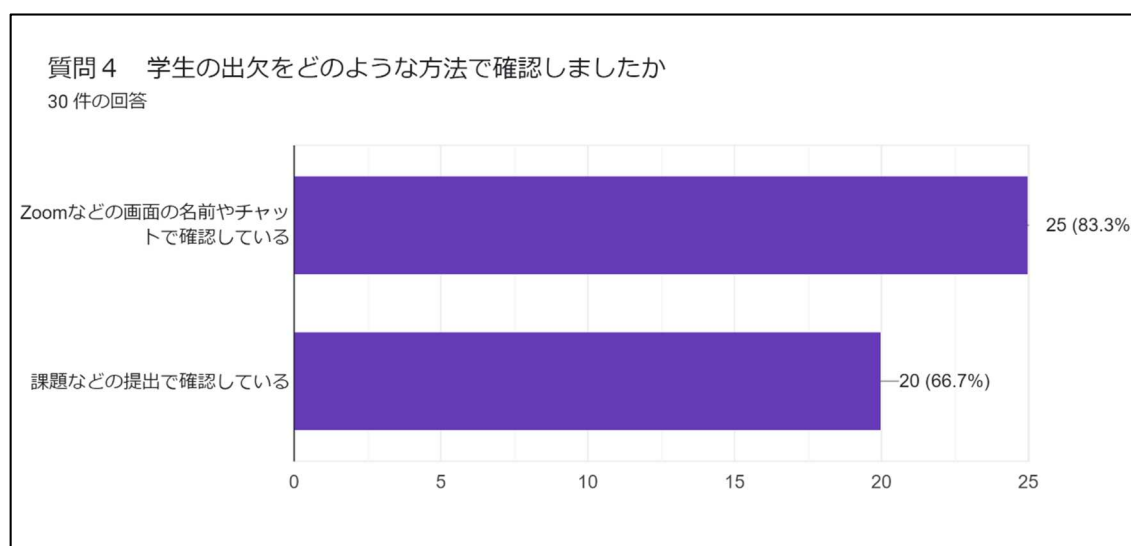


図 3

遠隔授業の利点に関する自由記述は26名から回答を得た。主な内容は教育効果と学習効果、感染ヘリスクの安全性・負担軽減に分類できた。それぞれの利点について以下に示した。

《教育効果としての利点》

- ・授業による学習効果をタイムリーに集計でき、授業評価の利便性が高い
- ・どこからでも授業と聴講ができて教員・学生共に利便性が高い
- ・ブレイクアクションなどグループワークが利用しやすい
- ・授業資料の提示がしやすく、学生が見やすく、明瞭さが向上した
- ・チャットなどを利用により学生の反応や質問などがファイル保存され評価の客観性が向上
- ・学生との情報共有が容易

- ・集団への授業であるが、個別指導的な対応で効果的

《学習効果としての利点》

- ・少人数による意見交換がしやすく、学生間の学びにつながる
- ・学生個々の学び方に柔軟性を持たせることができる
- ・一対一の学生と教員に刺激され、他の学生からの質問があり相乗効果がある
- ・オンデマンド型により学習の利便性と復習が容易

《感染リスクや負担軽減に関する利点》

- ・感染リスクから教員・学生の安全性が確保できる
- ・通勤・通学の時間のロスと負担が軽減される
- ・大学院の夜間授業の負担軽減は大きい
- ・印刷資料の手間が省けた

次に、遠隔授業の欠点に関する自由記述は12名から回答を得た。主な内容は《学生の反応やモチベーションなど把握しにくい》という意見が圧倒的に多かった。その他に《グループセッションの限界》、《演習によるスキル評価の困難さとその効果の低さ》、《提示できる授業媒体の限界と学習環境の不備》、《遠隔授業利用上の環境整備の困難さ》、《一方通行授業による孤独感》、《教員の負担》などがあった。以下に具体的意見の抜粋を示す。

《学生の反応やモチベーションが把握しにくい》

- ・学生の反応がわからない
- ・学生の理解度がわからない
- ・学生の授業参加のモチベーションが維持しにくい
- ・学生が集中できる授業展開が難しい
- ・学生の参加状況が授業に反映させにくい

《グループセッションの限界》

- ・学生同士のグループワーク演習が困難
- ・参加している学生が固定化され、全員参加ができていない
- ・参加状況を教員が把握しにくい

《演習による技術評価の困難さとその効果の低さ》

- ・遠隔授業による技術演習の学習効果が低い
- ・コミュニケーション演習による傾聴態度が評価できない

《提示できる授業媒体の限界と学習環境の不備》

- ・提供できる資料が制限され、臨機応変に学生に回覧できない
- ・プリンターなど学習環境の整備が学生任せ

《遠隔授業利用上の環境整備の不備》

- ・在宅勤務中の遠隔授業の環境を整えにくい(生活雑音など)
- ・2人部屋の研究室における遠隔授業は同室者への影響が大きい
- ・Zoomを使用するための場所と利用時間に制限がある

《一方通行授業による孤独感》

- ・パソコンに話しかけている感覚

- ・一方通行の授業になりがち
- ・学生の反応に呼応した講義の展開ができない

《教員と学生の負担》

- ・グループセッションによる意見を教員がメモして提示する負担
- ・対面式授業資料に加え、遠隔授業用としてのスライド資料作成の煩雑さ
- ・リアクションカードの返信に時間を費やす
- ・目や肩の疲れが蓄積
- ・対面授業と遠隔授業双方の授業準備の負担
- ・課題提出日程が集中しやすいことによる学生の負担

遠隔授業に対する課題について 21 名から回答を得た。

安定的な通信環境の整備はもとより、Zoom や Google Classroom 以外のアプリを拡大し利便性を求める意見があった。さらに遠隔授業のスキルは教員間に差があるため、教員サポート体制の維持・強化と研修会の開催、遠隔授業による試験方法など教員間の情報共有の機会を要望していた。新型コロナウイルス感染で始まった遠隔授業ではあるが、遠隔授業と対面式授業を両輪とするハイブリッド型が定着することによって教育効果や学習効果の期待感があった。

一方学生に視点をあてた意見として、学生に提供するパソコン等の通信機器だけでなく、プリンター整備の必要性を指摘していた。さらに、学生のスキルに個人差があることや新入生や復学した学生などを対象としてアドバイザー教員やピアサポート制度の導入などの提案があった。

2.4.3 授業改善への取り組みと今後の課題と展望

福井県立大学は新型コロナウイルス感染拡大とともに遠隔授業をいち早く導入した。前期遠隔授業の実施に向け、4 月上旬に開催された Zoom や Google Classroom などの研修会にほとんどの看護福祉学部教員が参加した。これが 2020 年度の FD 研修のスタートであり、教員も否が応でも遠隔授業に翻弄してきた 1 年間であった。

実態調査の自由記述は多くの教員が遠隔授業を体験したからこその実感と現実である。遠隔授業に対する利点の回答数が欠点の回答数よりも多く、導入当初の戸惑いを払拭する意見や新たな気づきを得ていた。また欠点を指摘する視点は多岐にわたり、学生と教員とのやり取り、学生間のグループダイナミクス効果という点において遠隔授業に対する厳しい指摘である。これらの意見は遠隔授業による授業展開の教員の葛藤と不安として受け取れる。

最も難しい挑戦として遠隔による試験であった。難しさ故にレポート課題による成績評価に切り替えた授業科目も多かった。また試験を実施した教員の経験をシェアしてほしいと懇願する意見もあった。レポート等で成績評価は可能であるが、最低限の知識や実技を伴う技術チェックなどは対面式によって適切な評価となる。このような成績評価を遠隔で実施するためには創意工夫と遠隔ツール活用のスキルアップ、教員間の情報共有の機会が必要であろう。また教員、学生ともに負担が増えるが、学年暦に沿わない別日程を設けて対面式で複数回に分けて対応するしかない。

授業評価をみると、大学全体の評価は前期・後期ともに得点差は小さいが、看護福祉学部の評価は遠隔授業の前期に比べ、後期の授業評価の得点が相対的に高くなっていた。これは遠隔授業に学生、教員共に十分に慣れていなかったことも影響しているかもしれない。後期は対面式授業展開

のしやすさとともに、学生の反応がリアルに把握でき学生間や教員と学生とのやり取りがスムーズに伝わった結果として解釈できるのではないか(すべてではないが…。)

遠隔授業で“学習”はできるが、“学修”に課題が残るという意見があった。“学修”を遠隔授業によってどこまで達成できるか、どう達成させるかは大きな課題である。看護福祉学部の教育目的は知識・技術・態度に基づいて対面援助を教授することであり、対面式による学習効果と教育効果は大きい。さらに言うと、生活援助技術や相談援助技術はともにコミュニケーション能力と対象の反応をとらえる感性や態度の育成が重要となるため、教員は対面式で学生を集団と少人数を使い分けた教育方法を積み重ねてきた。2020年度のコロナ感染拡大による遠隔授業の導入に納得するものの、少しでも対面式による授業の再開を渴望してきたが、いまだ感染の終息は見えてこない。このような現状を鑑み、対面式と遠隔授業を両輪とするハイブリッド型授業双方の欠点と利点を補完した新たな授業展開の可能性に大きな期待感をもつ複数の意見があった。

多くの教員が Zoom や Google Classroomなどを駆使して自前の視聴覚教材を作成したことであろう。特に、オンデマンド型は学生が自分の時間を使って復習する利点がある一方で、教員自身が客観的にリアルに授業を振り返ることができるツールとして活用すること、すなわち授業公開の新たな手段になると考える。試行錯誤してきた遠隔授業ツールの活用と授業展開を振り返ることができ、効果的な教育方法を探る糸口にもなりえると言えよう。各々の教員が2020年度の遠隔授業の経験を糧に新たな授業展開と教育の改善につながるものと期待したい。

2.5 学術教養センター（加藤まどか）

2.5.1 授業評価アンケートの結果

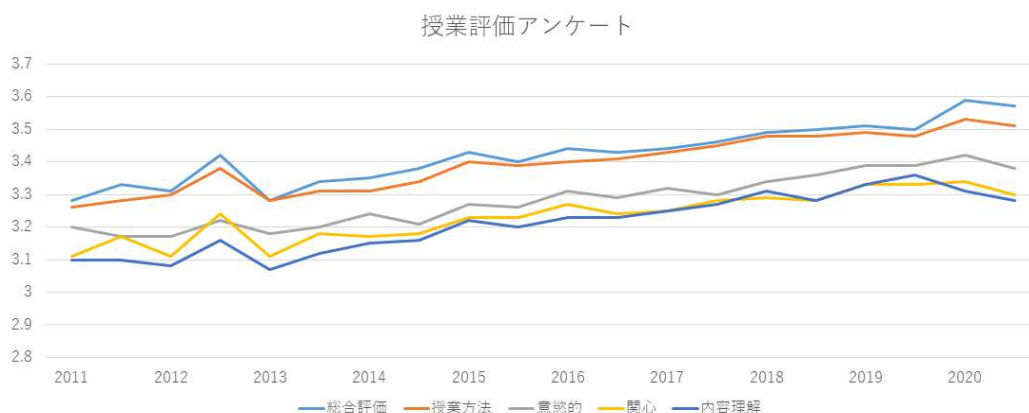
今年度の授業評価アンケートは、遠隔授業を実施していたことから、初めて WEB 上でのアンケートを実施した。また遠隔授業の負担が大きいことから、学術教養センター（以下、学教センターと略）では非常勤教員の担当科目については対象外とし、専任教員の担当科目のみを対象としてアンケートを実施した。

学部生による授業評価全体集計（部局別）の結果では、以下のグラフに見られるように、学教センターでは、過去 10 年間に於いて、全項目で上昇傾向が続いている。2020 年度前期は、「内容理解」の項目以外は、数値が大きく上昇している。2020 年度後期は、前期よりは数値が下がっているが、2019 年度後期とほぼ同じ水準である。

2020 年度前期は、ほとんどの科目が遠隔授業となり、教員は予期せぬ事態への対応に迫られた。2020 年度後期は、感染状況に応じて遠隔授業と対面授業とが切り替わり、予定通りには進まないという事態に対応せざるを得なかった。

2020 年度の数値については、2019 年度までとは、アンケートの実施方法や対象科目が異なるため、単純に比較することはできない。しかし上記の事情を考慮すると、2020 年度の数値には、不測の事態に対応しつつ、教員が授業の質を落とさぬように尽力した結果があらわれているものと思われる。

一般教育	2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
意欲的	3.2	3.17	3.17	3.22	3.18	3.2	3.24	3.21	3.27	3.26	3.31	3.29	3.32	3.3	3.34	3.36	3.39	3.39	3.42	3.38
授業方法	3.26	3.28	3.3	3.38	3.28	3.31	3.31	3.34	3.4	3.39	3.4	3.41	3.43	3.45	3.48	3.48	3.49	3.48	3.53	3.51
内容理解	3.1	3.1	3.08	3.16	3.07	3.12	3.15	3.16	3.22	3.2	3.23	3.23	3.25	3.27	3.31	3.28	3.33	3.36	3.31	3.28
関心	3.11	3.17	3.11	3.24	3.11	3.18	3.17	3.18	3.23	3.23	3.27	3.24	3.25	3.28	3.29	3.28	3.33	3.33	3.34	3.3
総合評価	3.28	3.33	3.31	3.42	3.28	3.34	3.35	3.38	3.43	3.4	3.44	3.43	3.44	3.46	3.49	3.5	3.51	3.5	3.59	3.57



2.5.2 遠隔授業についてのアンケート

2020年度の遠隔授業についての状況を把握するために、学術教養センターの専任教員を対象としたアンケートを実施した。講義やゼミも含めて、遠隔授業を実施した科目ごとに回答を依頼した。

なお、このアンケートは、経済学部で前期に実施されたアンケート調査を参考にし、海洋生物資源学部でのアンケート調査項目にならって実施している。（アンケート調査の利用について御快諾いただいた経済学部・新宮先生と、海洋生物資源学部・佐藤先生に御礼を申し上げます。）

件名：R 2 年度 遠隔授業の取組調査

調査方法：Googleformによるオンライン形式(無記名)

実施期間：2021年3月30日～4月7日

回答数：55件

アンケートの質問項目と、回答数は、以下の通りである。（赤字は集計結果）

R 2 年度 遠隔授業の取り組み調査

遠隔授業においてどのような取り組みがなされたかを調査するものです。

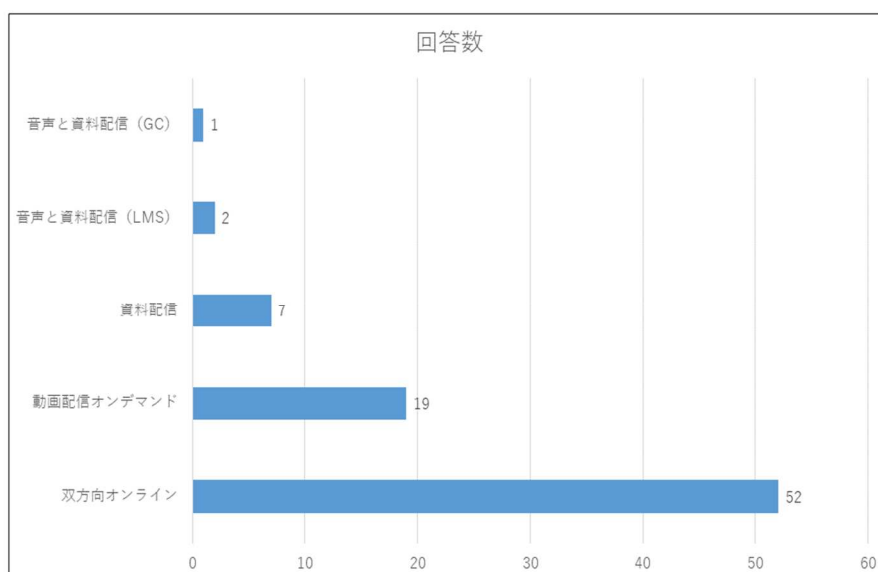
今年度に担当した講義科目について回答してください。

本アンケートは複数回の回答が可能です。

複数科目を担当した先生は、それぞれについて回答してください。

Q1：遠隔授業のやり方を選んでください。（該当するものをすべてチェック、以下の問いも全て同様）

- ・双方向オンライン型授業（Zoom などによる。ライブ授業） 52
- ・動画配信オンデマンド型授業（YouTube などによる） 19
- ・資料配信型授業（Web やメールなどによる） 7
- ・その他：音声と資料配信（LMS 使用のオンデマンド型、動画はなし） 2
- 音声と資料配信（GC 使用のオンデマンド型、動画はなし） 1



Q2：学年暦で祝日・土曜日に割り当てられた授業の対応方法を教えてください。

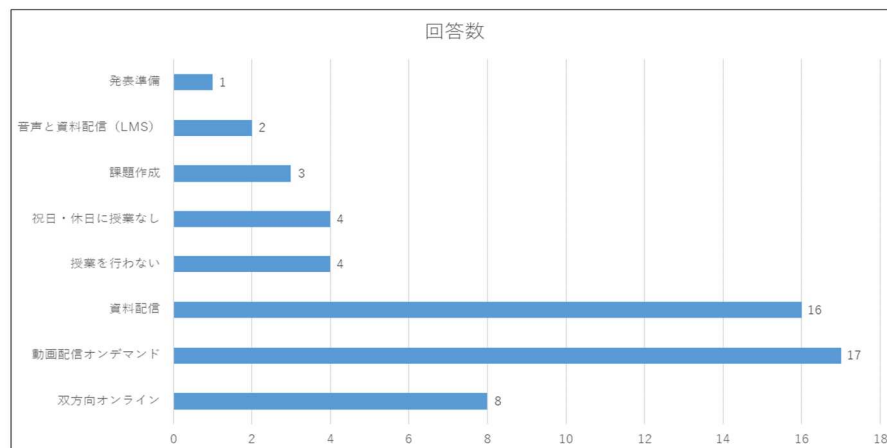
- ・学生に配慮の上、双方向オンライン型授業を行う 8
- ・動画配信オンデマンド型授業を行う 17
- ・資料配信型授業を行う 16
- ・授業を行わない 4
- ・その他

祝日・土日に授業はなかった 4

課題作成の時間に充てた 3

LMS 使用のオンデマンド型の授業（音声と資料配信）を実施 2

発表準備の時間に充てた 1



Q3：設問回答、添削指導、質疑応答などによる指導について

- ・課題の採点またはコメントをして返却した 37
- ・学生との質疑応答をした 41
- ・その他

メールや Zoom での質疑応答を行った 1

受講生が多い授業では、全員の課題にコメントを付けるのが困難だったため、毎回 3～4 人の課題をピックアップして解説・コメントした。 1

学生の課題の答えや質問、コメントを抜粋してまとめ、次の授業の最初に紹介した。 1

提出されたもの全てを整理、プリントとして配布し、説明を加えて授業に盛り込んだ。

個別の質問には回答した。 1

提出された課題についてのコメントを、まとめて次の授業の際に伝えた。 1

Q4：出欠の確認方法について教えてください。

- ・Zoom などの画面の名前やチャットで確認 41
- ・課題などの提出で確認 32
- ・その他

LMS のログで確認 1

毎回のミニツッパーパーの提出 1

オンデマンドで授業の動画を見た学生にメールで報告してもらった 1

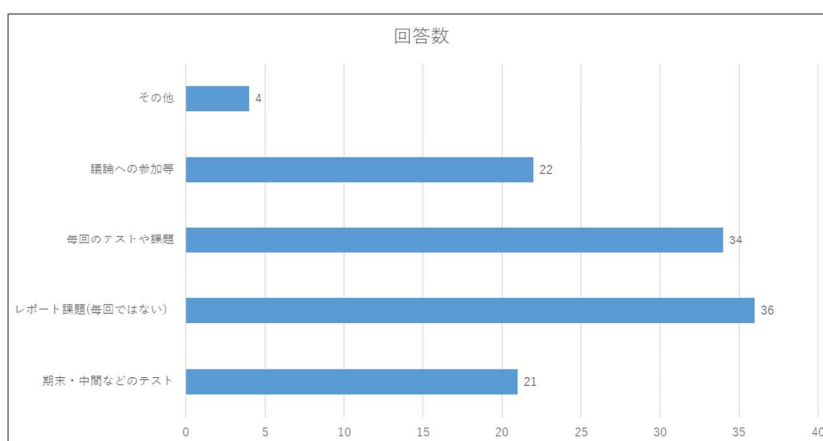
Q5：学生の評価方法を教えてください。

- ・期末・中間などのテスト 21
- ・レポート課題（毎回ではないもの） 36
- ・毎回のテストや課題 34
- ・議論への参加など、授業中における学生の取り組み 22
- ・その他

口頭発表 2

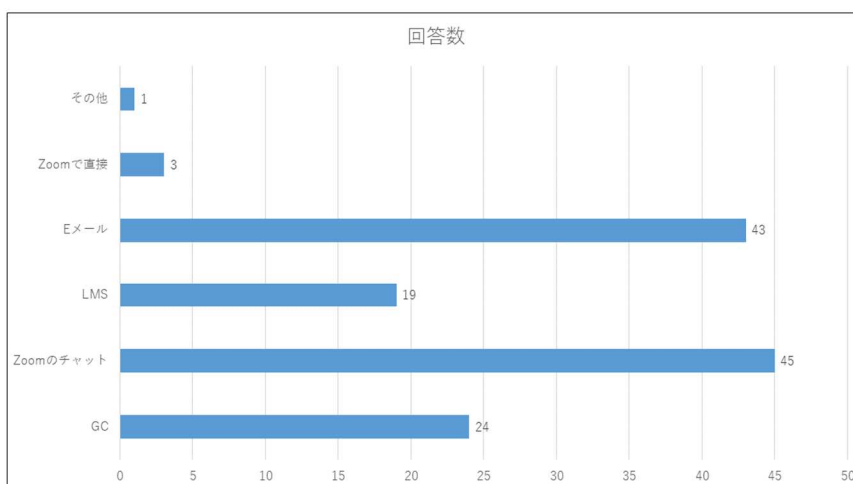
毎回ではなく 3 回に 1 回程度の小課題 1

数回にわたる小課題 1



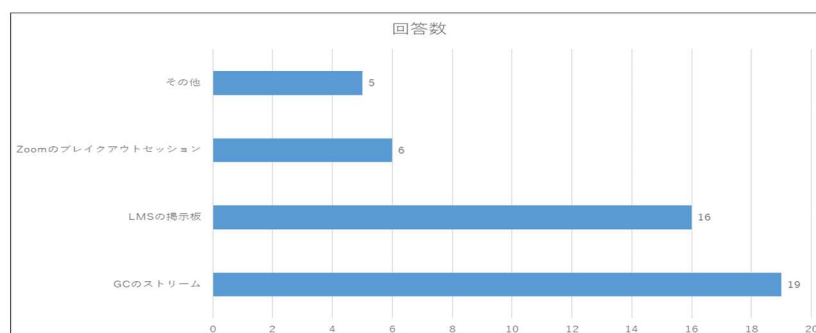
Q6：学生と質疑応答をする方法を教えてください。

- Google Classroom を利用 24
 - Zoom のチャットを利用 45
 - LMS を利用 19
 - E メールを利用 43
 - LINE を利用 0
 - その他
- Zoom で直接やりとり 3
- Google Classroom の限定コメント 1



Q7：学生同士が意見を交換できる環境を用意していますか？

- Google Classroom のストリームを用意 19
 - LMS の掲示板を用意 16
 - LINE グループを用意 0
 - その他
- Zoom のブレイクアウトセッション 6
- Excel online 1
- グループ内で学生同士にやりとりしてもらった 1
- Zoom で直接 1
- Google Classroom の質問 1
- Google Jamboard 1



Q8：今年度の遠隔講義で、うまくいった、またはうまくいかなかった試みについて、教えてください。（自由記述式）

⇒回答のあった科目について、付表として p. 40～p. 43 に掲載

遠隔授業の取組調査結果から読み取れる事柄について、以下で簡潔にまとめておきたい。なお、この調査は学術教養センターの専任教員が担当した科目のみを対象としたもので、学術教養センターが提供している全科目を対象としたものではない。また学術教養センターの専任教員が担当した、すべての科目について回答が得られているわけではない。回答が得られた科目のみを対象としていることに御留意いただきたい。

遠隔授業のやり方については、双方向オンデマンド型授業が最も多いが、動画配信オンデマンド型や資料配信型、音声と資料配信等、多様な形態で実施されたことが分かる。

2020 年度は祝日・土曜日にも授業が割り当てられたが、動画配信オンデマンド型や資料配信型などにより授業が実施されている。

学生への指導については、質疑応答や、課題の採点またはコメントをして返却するやり方を中心に、個々の教員が多様なやり方で実施していたことが分かる。出欠の確認は、主に Zoom の画面やチャット、または課題の提出によってなされている。

学生の評価方法については、レポート課題(毎回ではない)、毎回のテストや課題、議論への参加などの授業中における学生の取り組み、期末・中間などのテスト、とやり方が分かれており、それぞれの授業形態に応じて実施されたものと思われる。

学生との質疑応答については、Zoom のチャットと E メールが主な方法であるが、GC や LMS 等を利用したやり方でもなされている。

学生同士が意見を交換できる環境は、主に GC のストリーム、LMS の掲示板、Zoom のブレイクアウトセッションによって用意されていたことが分かる。

以上、取組調査結果の全体からは、個々の教員がそれぞれのやり方で遠隔授業を実施し、学生への指導、出欠確認、評価方法、学生との質疑応答など、授業形態に応じて工夫して取り組んでいたことが推察される。個々の教員による取組の詳細については、Q8 の回答（記述式：p. 40～p. 43 に掲載）でも記されているため、そちらを参照していただきたい。

2.5.3 授業公開の方針と実績

学教センターでは、授業は常時公開となっており、随時、教員同士の授業参観が行われてきた。2020 度は遠隔授業となり、オムニバス授業を中心に、Zoom で録画された授業の動画を視聴しあうなどの授業参観が、活発になされた。

授業参観は、互いの遠隔授業のやり方を学ぶことで、自分の授業の改善につながる良い機会となったものと思われる。

2.5.4 部局内 F D 研修

2020 年度は遠隔授業の円滑な実施に向けて、様々な取組が実施された。

まず、コロナ禍で全学的に遠隔授業を実施するにあたり、山川先生が中心となり、Web 授業時間割の作成や、事前の教員・学生の遠隔授業実施・受講環境調査、マニュアルの作成、質問への対応等、その実施体制を整えた。

また、学教Cの教員が中心となって、以下の研修会が実施された。

(1) 各種授業支援システムの講習会 (4/14, 4/22 : Zoom で開催)

専任および非常勤講師を対象に、2020年4月14日、22日にZoomにて各種授業支援システムの講習会を開催した。Google Classroomについては松本先生が、LMSについては徳野先生が、クラス(コース)の作成から資料や課題のアップロードまでの初歩的な操作について解説した。Zoomについては、國崎先生が画面共有や録画等の基本的な操作について説明した。

(2) ハイフレックス型授業・検討会 (8/31)

後期授業に向け、8月の後半からハイフレックス型授業(対面授業の同期・非同期オンライン配信)の検討が始められ、中村先生を中心に杉村先生、國崎先生、松本先生の間で準備が進められた。8月31日にはハイブリッド授業検討会が実施された。中村先生が教室で対面授業のZoom同時配信を試験的に行い、関心のある教員が見学した上で方法や必要な機器について検討した。その結果を踏まえ、学教センターの教員・非常勤講師間で情報を共有し、ハイフレックス型授業の実施の意思確認や教室の調整を行った。環境整備については、事務局と共に教室のWi-Fi環境やウェブカメラ等の機器について確認する一方、教員のサポートのため学生アルバイトを設置することになった。学生アルバイトは國崎先生がとりまとめ、後期の授業では6人のサポーター学生を雇用し、授業配信のサポートを実施した。

(3) 全学ミーティングでの研修 (2/17)

2021年2月17日の全学ミーティングにおいて、徳野先生が、PCや各種情報システムを用いた授業実施時に生じやすい情報漏洩や情報モラルに関する問題事例を取り上げ、全学の教員に対して注意喚起を行った。

以上の研修に加えて、遠隔授業を円滑に実施するために、以下のような大学の授業支援システムの更新作業が実施された。徳野先生を中心に、山川先生、教育推進課、財務課と管理者が連携し、これまでフレックス(福井県大学間連携事業)で運用してきたLMS, SNS, eポートフォリオのシステムの更新作業を行い、本学のサーバーとして遠隔授業やオンライン学習を支援する環境を整えた。

2.5.5 授業改善についての課題と展望

2020年度は授業の実施方法について々な制約があったが、その中でも、1名の教員(石丸先生)は、コロナ禍であるからこそその工夫をして、以下のような積極的な取り組みを行っている。

1、せっかく入学したのにキャンパスに入校出来ないなので、導入ゼミで見せるための校内紹介ビデオを作成して各ゼミの先生にもリンクを配布した。

2、情報基礎演習の図書館ツアーが出来ないので、図書館と協力して図書検索の方法と図書館紹介ビデオを作成し、情報基礎演習で紹介した。

3、学術ゼミでフィールドに行けなかったなので、地域の防災活動をする方にリモートで講義をしていただいた。

4、教養ゼミで能動的に考えることを目的として、貿易ゲームや出たゴミを仕分けして計測するなど、新しい試みを導入した。

5、南米に関する授業で、ブラジル福井村出身の方を招いて日本とブラジルの関係性を話し

てもらった。

6、アマゾンの先住民コミュニティで女性の現金収入手段であるアクセサリー作りを授業に導入してみた。感想を見ると楽しかったらしい。

7、南米の授業ではコンテンツを入れ換えて、ブラジルのコロナと政治について扱った。時勢に応じた話題を盛り込んだ。

8、新しい取り組みではなく以前から行なっているが、どの授業も最後に独自のアンケートを行い、わかりにくいという意見が多かった回は次年度に反映して、分かりやすくする改善を行なっている。

リモートで外部講師に講義をしていただく、コロナについての話題を授業のなかに取り入れる等は、コロナ禍が継続している 2021 年度においても、授業の実施方法として参考にできるものであろう。2021 年度も対面授業が遠隔授業に切り替わったり、研究室ではなく自宅でも遠隔授業を実施するようになったりと、不測の事態に対応せざるを得ない状況である。その中で、工夫を重ねて、より良い授業の実施方法を模索することが求められている。

*付 表：遠隔授業の取組調査

「Q8：今年度の遠隔講義で、うまくいった、またはうまくいかなかった試みについて、教えてください。（自由記述式）」の回答

No.	遠隔授業のやり方	うまくいった、またはうまくいかなかった試み
1	双方向オンライン型授業（Zoom などによる。ライブ授業）	語学では「ロイロノート・スクール」があったからうまくいった。有料になった今年度は予算を付けてくれなくなったので、うまくいかないだろう。
2	双方向オンライン型授業（Zoom などによる。ライブ授業）、動画配信オンデマンド型授業（YouTube などによる）	上手くいかなかったこと。情報基礎演習のタッチタイピングのソフトが使用できなかったのもネット上のタイピングサイトを利用したが、例年より基準が厳しくなったのか成績が悪くなった。初めて使うサイトで例年と同程度の難易度レベルを見つけるのが難しい。日本の文化と社会など、映像を基にして解説して行っていた授業では映像が上映できず、未見の人には伝わりにくかった懸念がある。そのほかは特に困ったことは無かった。
3	双方向オンライン型授業（Zoom などによる。ライブ授業）、動画配信オンデマンド型授業（YouTube などによる）	全授業で「GC のストリームに質問や意見を自由に書き込んで良い」とアナウンスしていましたが、実際に書き込んだ学生はゼロでした（課題の限定公開コメントで質問する学生がほとんどで、メールで質問する学生も少なかったです）。授業アンケートの結果を見ても、教員側の肌感覚としても、課題のフィードバックを丁寧に行うことが学生の意欲・教育効果の向上に直結していると感じます。受講生が 100 人を超えるような授業で毎回全員の課題にコメントを付けたり、丁寧な添削を行うことは困難なので、どのようにフィードバックを行うべきか、悩んでいます。

4	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)	・うまくいった点 一番好反応だったのは、後期の大講義において①対面授業、②Zoom のリアルタイム配信、③オンデマンド動画の視聴の三種類の受講方法を用意し、学生自身が受けやすい方法を自由に選べるようにしたこと。自身の体調や学習状況に合わせて受講方法を変えられたのが良かったという意見が多かった。また、この方法をとったことで、教室の規模にかかわらず受講人数を制限する必要がなかった点も、一般教育のカリキュラム全体にとって良かったのではないかとと思う。 また、オンライン授業となったことで遠方や海外に居住する講師の招聘がしやすくなったので、Zoom を用いたゲスト講義を増やしたことも好評だった。 ・うまくいかなかった点 出席の管理について、対面参加とオンライン参加の学生の出席を同時に管理するのに少し手間がかかった。対面参加の場合も GC で出席を提出するようにすれば管理は楽だが、教室に来ている学生にとってはわざわざ GC にログインするよりも紙に書いた方が楽なので、どちらが良いかは今後検討が必要である。
5	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	1 時間のみ授業を行い、後の 30 分は毎回課題をやってもらった。この方法は学生には好評のようであった。
6	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	大講義（後期）について。 通信環境が整い、Zoom 授業をやってもよい感じになったので、前期のオンデマンドを後期では Zoom に切り替え。プリントに適宜空欄を設けて、書画カメラ使用で板書をするなど、対面授業とほぼ変わらない形でできた。大学側から早めに切り替えの時期も示されたので、他大学に一部見られたような混乱・困惑もなく、授業は計画通り行われ、大変助かった。ただ、前期の緊張感が薄れた上での Zoom 授業となったため、学生側の参加状況は今ひとつ読み取れない。課題を毎回出すことは現実的ではないが、何らかの工夫は必要だと感じた。
7	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	学術ゼミ AB について。 少人数ゼミなので、ほぼ問題なくいつも通りのやりとりができた。発表も問題なし。とは言うものの、後期に対面から遠隔に戻るときには、皆、大変名残惜しく別れた。やはり少人数は対面の方が楽しいというのが、共通理解。
8	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	導入ゼミについて。 双方が慣れない中、最初の数回をゆっくり始めるようにとの教務委員からの指示は現実的で、大変ありがたいものだった。緊張感のある中、多くの学生は一生懸命課題に取り組み、また各地域の書店・図書館で本を探すことも出来たようである。諸々の制約の中で、有意義な授業が出来たことに安堵している。慣れていなかったのがブレイクアウトセッションをあまり使えなかったが、適宜息抜きの時間として使用したい。
9	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	教養ゼミについて。 途中に対面が入ったためにプリントの直接配布が可能になり、また互いの距離も縮まったのは大変よかった。対面がややだれ始めた頃に Zoom に戻り、新鮮さを取り戻したかにも感じられる。ただ、徐々に顔出ししないことが当たり前になり、それは無反応にもつながっていくので、15 人くらいまでの授業では顔出しを指示した方がよい、と反省。
10	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	講義科目について。 途中に対面が入ったためにプリントの直接配布が可能になり、また互いの距離も縮まったのは大変よかった。発言を自然にさせるためにも、こちらから顔出しを指示した方がよい、と反省（授業アンケートで学生より指摘あり）。

11	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)	双方向オンライン授業で書画カメラ+簡易ホワイトボードを使うのは便利だった。同じ形式で、対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド授業も問題なくできた。
12	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	遠隔講義と言うのは、『授業』ではない、と言う声を、学外の多くの方から伺った。確かに、プライバシーの関係で、受講生の顔や受講状況をきちんと教員側に見せることを強要出来ないのが、無念である。
13	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	うまくいったのかどうかは不明ですが、対面でするときよりも出席率が高かったようです。途中からのドロップアウト率も低かったように思います。
14	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)、資料配信型授業 (Web やメールなどによる)	単元によって、Zoom によるオンライン型と動画配信または資料配信オンデマンド型を切り替えながら授業を行いました。主に、説明が中心になる単元についてはオンライン型で、学生の作業が中心になる単元については、オンデマンド型で実施しました。授業評価アンケートを見ると、オンデマンド型が好評なのは全学的なアンケートでも見られた傾向でしたが、「授業内容によってオンライン型とオンデマンド型が変わるのが良かった」という意見も見られ、授業方法としては上手くいったのではと考えています。 一方で、オンライン型に関しては、「進み方が早かった」という意見もあり、そこは改善していく必要があると考えています。 また、この授業は例年、学生が情報演習室の PC を使って受講しているところ、今学期は、各自の PC から受講ということで、Office がインストールされていない学生への配慮として、Google ドキュメントや Google スライドを利用した教材を作成しました。対象学生からは好意的な意見が聞かれました。
15	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)、資料配信型授業 (Web やメールなどによる)	Zoom のブレイクアウトルームや Google Jamboard (電子ホワイトボード機能) 等を用い、学生同士が双方向に意見交換できる場を設けました。それらが上手く機能していたか否かは、グループの中にリーダーシップのある学生がいるかどうかということにも関係していたので、その点は対面のグループワークと同様の課題があると思います。
16	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)、資料配信型授業 (Web やメールなどによる)	学生が集中できるようにスライドに対応した穴埋めプリントを用いました。また、LMS のフィードバック機能を使って、各回の授業内容に関するお題を出題し、その場で回答結果を学生と一緒に確認しました。このほか、ZOOM の投票機能を用いるなど、双方向のやり取りを意識して授業を行いました。こういった授業の実施方法については概ね好意的で、例年の対面授業よりも良い結果でした。

17	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)	例年、用紙で回収していたミニツペーパーを Google フォームに移行しました。回収の手間が大幅に軽減されたことに加え、回答フォームの控えが学生にメールで配信されるように設定することで、解説時に学生に用紙を返却する必要もなくなりました。また、ZOOM と対面によるハイフレックス型授業、オンデマンド型授業と授業回によって実施方法を変えることに対して混乱が生じないよう、毎回の授業の受講方法を GoogleClassroom や LMS を介して連絡していた点についても、「分かりやすく良かった」という声がありました。また、大講義では学生が授業中に質問をし難い環境がありますが、ハイフレックス型で実施することで、ZOOM のチャット欄を介して対面受講の学生が質問をしてくることもありました。
18	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)、動画配信オンデマンド型授業 (YouTube などによる)	ZOOM と対面によるハイフレックス型授業を収録したものを編集して復習用に LMS に掲載しました。学生からは好意的な意見がありましたが、十分な編集時間が取れず、すべての单元に対して実施することができなかった点は、今後改善が必要だと思えます。
19	双方向オンライン型授業 (Zoom などによる。ライブ授業)	zoom の画面共有で資料を示しながら説明するやり方は、スムーズに進行できた。 ブレイクアウトセッションでの意見交換の際には、会話が途切れてしまうグループもあった。
20	音声と資料配信 (GC 使用のオンデマンド型・動画はなし)	大講義 (前期) について。 学生の通信環境がわからないので、極力通信料を抑え、且つ受講状況が公平になるよう、音声をレコーダに録音し、これに合わせた資料を配信するラジオ講座方式を採った。オンデマンド授業における毎回の課題提出とそれに対する全員へのコメント回答は学生教員双方にとって過重な負担を課すもので、他の多くの授業も同様であったことを考えると、非現実的なルールである (こちらの作業も深夜に及び、しかも学生も同様で、夜中の 3 時頃に課題が送られてきていた)。数回に 1 度、本当に問うに値する課題を出す方が、はるかによい。しかし他方、周囲に同調して行動することがかなわない状況が幸いし、やる気のある学生は積極的に教員にコミュニケーションを求めてくるし、課題を通しての個別のやりとりは非常に濃密で有意義なものになった。学生の参加度に関して落差が激しくなる形式の授業である。 授業準備に当たった最大の難関は、平板な授業を避けるために取り入れようとした音楽の扱いであった。歌詞分析のために楽曲を聴いてもらう必要があったが、著作権以外に隣接権が発生する事情を知るのに半月ばかりを要し、またレコード会社に問い合わせてもコロナ禍のために連絡がうまく届かず、結局、1 社の許可を得ただけで、見切り発車で教材を作成することになった。法律に関して素人が個人で調べられることには限界があり、副学長を通して問い合わせてもらったが、顧問弁護士などに気軽に聞ける通路が欲しかった。一年間が終わったところで、こうした情報共有をできるようにしてもらいたい。
21	音声と資料配信 (LMS 使用のオンデマンド型・動画はなし)	音声ファイルの配信は、「内容が分かりやすく、いつでも聞けるのが良い」と好評だった。授業の冒頭で、前回の課題についてコメントする (音声ファイルで配信) ことについても、「他の学生の意見が分かって良い」と好評だった。

ファカルティ・ディベロップメント報告書2020

発行年月 2021 年 3 月

編集・発行 福井県立大学FD部会